

# 2015 年度 JICA 横浜 教師海外研修報告書



研修国：タンザニア連合共和国

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）

# 目次

## 教師海外研修について

◆ はじめに	2
◆ 教師海外研修とは	3
◆ 教師海外研修の流れ	4
◆ 海外研修国の概要	5
◆ 研修参加者氏名	6
◆ 海外研修の日程	7

## 実践授業報告

### 小学校(4名)

◆ 工藤 隆太郎(横浜市立勝田小学校)	31
「知って、考えて、行動しよう」	
◆ 船山 美穂(横浜市立永田小学校)	40
「あなたならどうする?オリジナル発言から広がる世界へのステップ!」	
◆ 平野 沙和(川崎市立片平小学校)	49
「世界の人々とともに生きる」	
◆ 山岸 真喜子(座間市立立野台小学校)	57
「せかいを知ろう、考えよう」	

### 中学校(3名)

◆ 新堀 孝太郎(横浜市立新羽中学校)	65
「支援と開発~10年後のタンザニアにできること~」	
◆ 赤穂 沙織(鎌倉市立御成中学校)	73
「We are all in one world~私たちと世界~」	
◆ 大貫 謙一(横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校所属/神奈川県立光陵高等学校)	81
「タンザニアを体験-文化の違いっておもしろい!」	

### 高校(2名)

◆ 黄金井 貴徳(神奈川県立横浜清陵総合高等学校)	90
「生徒海外研修 in Tanzania!」	
◆ 諏訪 めぐみ(山梨県立甲府西高等学校)	101
「異文化理解」	

本報告書に記載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

## はじめに

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）では、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県と山梨県の教員の方々を対象に、「教師海外研修」を実施しています。本研修は、教員の方々が開発途上国における国際協力の現場視察や体験等を通じて途上国の現状や日本との関係について考え、国際協力への理解を深め、その経験をそれぞれの教育現場で児童・生徒の皆さんに伝え、広げていただくことを目的としています。

2015年度は、神奈川県と山梨県より10名の先生方にご参加いただき、東アフリカに位置するタンザニアで海外研修を行いました。出発前の国内研修では、タンザニア国概要、海外研修に際しての健康・安全対策、教材作成のためのワークショップなどの講座を実施し、先生方は、帰国後の授業実践も視野に入れ、過去の教師海外研修の参加者の教員の方々の助言も受けながら、積極的に準備に取り組まれました。

海外研修先のタンザニアでは、タンザニア第一の都市であるダルエスサラームと北部キリマンジャロ山の麓に位置するモシを中心に訪問しました。タンザニア各地では、農業や電気など生活に欠かすことのできない課題に取り組むプロジェクトの現場で、日本人専門家や共に働くタンザニア人スタッフの話を聞いたり、農村の家庭で実際に生活体験をする機会にも恵まれました。そして、各配属先の学校で真摯に生徒たちに向き合う青年海外協力隊の姿を見ることができました。

帰国後、先生方は事後研修、自主研修などを通じ積極的にお互いに学びあいつつ、それぞれ工夫をこらし、各学校で生徒の皆さんや同僚の先生方の関心を引くすばらしい授業実践を行いました。そして、「よこはま国際フォーラム 2016」の場でその成果発表として、授業案や素材を紹介し、参加者に国際理解教育・開発教育の実践例を紹介しました。

本報告書は、研修に参加された先生方の、タンザニアで得た学びや経験を活かした授業実践の取り組みが報告されています。学校現場における総合的な学習の時間、国際理解教育活動等の参考にしていただけましたら幸いです。

末筆となりますが、本研修にご参加いただいた教員の皆様に敬意を表するとともに、研修参加者をご推薦くださった学校長の皆様、本研修の実施にあたりご協力をいただきました教育委員会、研修講師の皆様、タンザニアでの研修を受け入れてくださった関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

2016年3月

独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター  
所長 小幡 俊弘

# 教師海外研修とは

## 1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県の教員や教育委員会指導主事等の皆さん(以下、教師)を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

## 2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察(海外研修)と、海外研修の前後に行う国内研修(事前／事後)の2つのプログラムから成っています。国内研修(事前)では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修(事後)では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果(教材)を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

## 3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

※詳しい応募資格は、毎年4月上旬に各学校に配布する募集要項、もしくはJICA 横浜ウェブサイトをご参照ください。

## 4. 海外研修期間

10日間程度(7月下旬ころに実施)

## 5. 募集時期

4月初旬～5月初旬

(各学校に募集要項を配布いたします。また、JICA 横浜ホームページでも掲載いたします)

## 6. 応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、JICA 横浜へ郵送またはご持参ください。

## 7. お申し込み・お問い合わせ

JICA 横浜 市民参加協力課「教師海外研修」担当宛

〒231-0001 横浜市中区新港 2-3-1

Tel: 045-663-3220

Fax: 045-663-3265

E-mail: yictpp@jica.go.jp



## 教師海外研修の流れ

### 国内事前研修

- 第1回：2015年6月20日（土）
- 第2回：2015年6月27日（土）
- 第3回：2015年7月18日（土）・19日（日）
- 第4回：2015年8月1日（土）

開発教育教員セミナー（基礎編）に参加し、開発教育ワークショップの体験をしたり、研修国（タンザニア）の基礎知識と健康/安全管理、教材研究の方法などを学び、海外研修と帰国後の授業実践のための準備を行いました。



### 海外研修（タンザニア）

- 2015年8月10日（月）  
～同年8月20日（木）



### 国内事後研修

- 2015年9月5日（土）

タンザニアで得た体験、写真、資料などを参加者全員で持ち寄り海外研修の振り返りと、教材作りについて話し合いました。



### 国内事後研修

- 2015年9月～2016年1月

参加者各自が工夫を凝らし、学校の現場で授業実践を行いました。



### 国内事後研修

- 2016年1月9日（土）・10日（日）

「開発教育教員セミナー（応用編）」では、開発教育国際理解教育の実践方法について、学びました。



### 研修報告会（よこはま国際フォーラム 2016）

- 2016年2月6日（土）

タンザニアでの海外研修を再現する形で、研修での気づきや学びを発表し、その後各参加者が実践授業で使った教材等を紹介しながら、ポスターで授業内容を発表しました。



## 海外研修国の概要

### タンザニア連合共和国 (United Republic of Tanzania)



**首都:**ドドマ(法律上の首都であり、国会議事堂が置かれている。政府官庁が存在するなど、事実上の首都機能を有し、経済面でも中心となっているのはダルエスサラーム)

**面積:**94.5 万平方キロメートル(日本の約 2.5 倍)

**人口:**5,182 百万人(2014 年:世銀)

**通貨・為替レート:**タンザニア・シリング(1 米ドル=1,582 タンザニア・シリング、2011 年)

**民族:**スクマ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族等(約 130)

**言語:**スワヒリ語(国語)、英語(公用語)

**宗教:**イスラム教(約 40%)、キリスト教(約 40%)、土着宗教(約 20%)

**政体:**共和制

**主要産業:**農業(GDP の約 23%)、製造・建設等(GDP の約 22%)、サービス業(GDP の約 50%)  
(2012 年:タンザニア財務省)

**GNI:**459 億米ドル(2014 年:世銀)

**1 人当たりの GNI:**930 米ドル(2014 年:世銀)

**経済成長率:**7.0%(2013 年:世銀)

**主要貿易品目:** (1)輸出 金、タバコ、コーヒー。カシューナッツ等  
(2)輸入 石油、輸送機器、機械類、建設資材等

(2012 年:タンザニア財務省)

**主要貿易相手国:**

(1)輸出 南ア、スイス、中国、インド、ケニア

(2)輸入 スイス、中国、アラブ首長国連邦、南ア、バーレーン、インド

(2012 年:タンザニア財務省)

**日本の援助実績:** (1)有償資金協力 約 627 億円(2013 年度までの累計)

(2)無償資金協力 約 1,677 億円(2013 年度までの累計)

(3)技術協力 約 797 億円(2013 年度までの累計)

(外務省ホームページより)

## 2015年度 教師海外研修 参加者氏名

No.	氏名	参加形態	勤務先	教科/学年
1	くどう りゅうたろう 工藤 隆太郎	参加者	横浜市立勝田小学校	4 学年
2	せきや やすゆき 関谷 康之	参加者	横浜市立神大寺小学校	5 学年
3	ふなやま みほ穂 船山 美穂	参加者	横浜市立永田小学校	5 学年
4	ひらの さわ 平野 沙和	参加者	川崎市立片平小学校	6 学年
5	やまぎし まきこ 山岸 真喜子	参加者	座間市立立野台小学校	2 学年
6	しんぼり こうたろう 新堀 孝太郎	参加者	横浜市立新羽中学校	社会科 2 学年
7	あかほ さおり 赤穂 沙織	参加者	鎌倉市立御成中学校	英語 2 学年
8	おおぬき けんいち 大貫 謙一	参加者	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (神奈川県立光陵高等学校所属)	3 学年
9	こがねい たかのり 黄金井 貴徳	参加者	神奈川県立横浜清陵総合高等学校	英語 1 学年
10	すわ めぐみ 諏訪 めぐみ	参加者	山梨県立甲府西高等学校	数学 3 学年
11	いちかわ ひろみ 市川 裕美	同行者	山梨県国際協力推進員	
12	たなか こうへい 田中 浩平	同行者	JICA 横浜市民参加協力課	



## 海外研修（タンザニア）日程

NO	日付	時間	訪問場所	宿泊先
1	8/10 (日)	0:30	羽田空港発	ダルエスサラーム
		13:15	ダルエスサラーム空港（ドーハ経由）到着	
		16:30	JICA タンザニア事務所訪問 ブリーフィング（安全対策）	
		18:30	JICA タンザニア事務所関係者との懇談会	
2	8/11 (月)	9:00	JICA タンザニア事務所訪問 ブリーフィング（農業セクター・電力セクター・教育セクター）	ダルエスサラーム
3	8/12 (火)	7:30	移動（飛行機） ダルエスサラーム→キリマンジャロ	モシ
		11:00	青年海外協力隊活動視察（キリンギ中等学校）	
		18:30	モシの青年海外協力隊員との懇談会	
4	8/13 (水)	9:00	青年海外協力隊活動視察（カラंगा小学校）	モシ
		13:00	青年海外協力隊員活動視察（警察学校）	
5	8/14 (金)	9:00	タンライスプロジェクト（コメ振興支援計画）視察	モシ
		18:30	専門家との懇談会	
6	8/15 (土)	9:00	タンライスプロジェクト（コメ振興支援計画）視察 コミュニティ訪問	モシ
		15:00	市内視察	
7	8/16 (日)	10:35	移動（飛行機）キリマンジャロ→ダルエスサラーム	ダルエスサラーム
		18:30	専門家との懇談会	
8	8/17 (月)	8:30	タンザニア電力供給公社（TANESCO）視察	ダルエスサラーム
		13:00	市内視察・教材購入	
9	8/18 (火)	9:30	青年海外協力隊活動視察（ムランディジ小学校）	ダルエスサラーム
		14:00	市内視察・教材購入	
10	8/19 (水)	9:00	JICA タンザニア事務所報告会	機中泊
		10:30	在タンザニア日本大使館表敬訪問	
		18:20	ダルエスサラーム空港出発	
11	8/20 (木)	17:55	成田空港着（ドーハ経由）、解散	

※ 研修中におこなった振り返りの時間は割愛しています。





## 教師海外研修（私の5枚）



参加者の先生方にタンザニアでの海外研修中に感じたことや出会いなどから印象に残ったシーン（5枚の写真）を選んでいただきました。

私の選んだ5枚

工藤 隆太郎（横浜市立勝田小学校）



「トウモロコシ畑と変電所」

広大なトウモロコシ畑の中に突如現れた巨大な人工物。ミスマッチなものですが、この変電所がこの地域に明かりという名の希望を届けているのです。



「リズムが生み出す一体感」

指と足踏みでリズムを作ってみんなで答え合わせ。思わず見ているこちらもほっこりしてしまいます。この一体感が学習の意欲につながっていると感じました。



「経済発展がもたらす反動」

ダルエスサラームの渋滞はすごいです。信号も動いてない状況でも、片側2車線の道路を右折していきます。交通事故の多発と発展…。あなたは何を考えますか。





## 「日本とタンザニアのかけ橋に」

日本の子どもたちの作ったものを渡し、喜んでもらえました。これからは心も通じ合えるかけ橋になっていきたいと思います。



## 「日本にはないものが…」

どこか懐かしい風景。しかしよく見ると日本にはないものが…。あなたは見つかりましたか。



私の選んだ5枚

関谷 康之（横浜市立神大寺小学校）



「ジーブ サ ヒヒ！（正解だよ！）」

数学の時間、「正解だよ！よくできたね」と◎をつけたときの嬉しそうな表情が今でも目に焼き付いています。



「タンザニアの食料事情を支えるもの」

ウガリのもとになる白いトウモロコシ。日本とは違っても、美味しいものになるという点は共通。



「どの国でも変わらない母の生活の知恵」

ご飯を炊いた後、保温しておくために炭を置く工夫。温かいものを食べてほしいという母の優しさがさりげなくでている。



「こんな所もアート之国  
『タンザニア』」

男子トイレの表示。ティンガティンガアートがこんなところにもあるなんて、驚きました。



「ウガリのできる過程」

何度も吹き上がりながら少しずつ固まってくウガリ。完成までの過程が見れて感動！



私の選んだ5枚

船山 美穂（横浜市立永田小学校）



「この子たちと…」

カランガ小学校のあるクラスの子ども達です。彼らと自分のクラスの子ども達が出会うことができたなら、どんな世界が広がるのか、想像しただけでワクワクしました。



「ダルエスサラームの街」

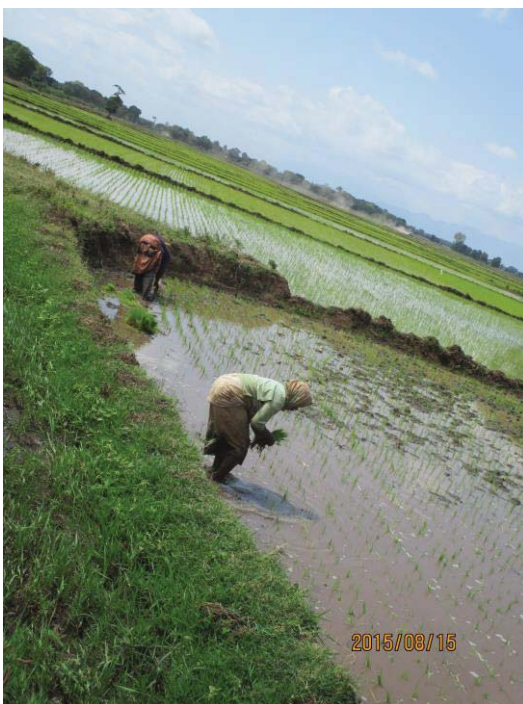
研修初日、「本当にアフリカ大陸・タンザニアに来たのかしら？」とってしまうくらい驚きました。





「マーケットでコメを購入！」

ローアモシ灌漑施設などの見学をした後、マーケットでコメを売っている人たちに出会うと、なんだかとても嬉しくなりました。私もローアモシ米を購入しました。



「慣れた手つきで…」

マボギニ村を訪れた際、案内してもらった田んぼで田植えをしている方に出会いました。「ぐちゃぐちゃに植えると葉は育つけど、米は良くないんだ…」と教えてくれました。



「昼食の準備中…」

マボギニ村のバルタザーリさんの家族の家にお邪魔しました。「次はこれを切って…向こうに持って行って…」など、あれこれ話しながらするご飯の準備…素敵な時間を過ごすことができました。



## 私の選んだ5枚

平野 沙和（川崎市片平小学校）



「おいしくなあれ」

かまどの火おこしから始まる昼食の準備。私も体験しましたが、とても重労働。愛する家族のために奮闘する女性の強さを感じました。



「ここはどこでしょう」

はじめてきた場所なのに、なぜか懐かしさを感じる…。モシの稲作の視察



「まぶしい笑顔」

ソーラン節披露の後、「わたしたちも踊れるわ」とダンスを披露してくれました。ダンスを通じて、心が通い合いました。





「一家の太陽と大黒柱」

農村体験でお世話になったご家族。この2人の明るさと優しさに包まれて育った息子さんも、とても素敵でした。



「目が覚めるような鮮やかさ」

タンザニアの伝統的なアートであるティンガティンガ。動物からマサイ族のものまでさまざまな絵が、色鮮やかに描かれています。



私の選んだ5枚

山岸 真喜子（座間市立立野台小学校）



「smile!」

日本の支援で作った灌漑施設で水汲みをするこどもたち。



「ここはどこでしょう？」

日本のような風景ですが、奥にバオバブの木があります。



「モシの市場」

以前モシにいたJOCVの知り合いらしく、一緒に写ってくれました。



### 「教材作り」

教科書や教材が足りない中、先生は工夫しています。



### 「現地の人と共に」

タンザニア人と共に活躍する JOCV。



私の選んだ5枚

新堀 孝太郎（横浜市立新羽中学校）



「JUMB!」

田んぼを視察した際に会った男性の  
写真です。とびっきりの笑顔で挨拶  
をしてくれました。



「家族だよ！全員集合！！」

ホームステイをさせて頂いた農家の  
家族写真です。笑顔がステキな  
家族でした。



「真剣に見つめる瞳の先には・・・」

学校の授業中の写真です。キラキラ  
した目で授業に臨む姿が印象的  
でした。



「私の好きなものは・・・」

授業であなたの名前と年齢と好きなものを聞いたときに撮った写真です。



「正解の記念に～はいポーズ～」

現地の先生の計らいで問題に正解した生徒と記念撮影した時の写真です。



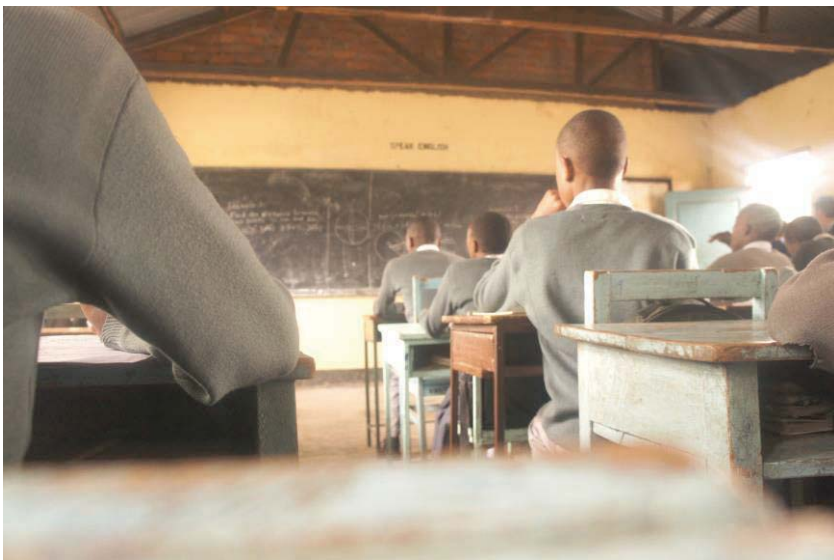
## 私の選んだ5枚

赤穂 沙織（鎌倉市立御成中学校）



### 「Japani」

時々、日本と同じような風景がありました。田んぼに畑、おじさん、自転車・・・白黒で見るとさらに似ています。違うようで同じ。同じようで違う。



### 「THE 教育」

先生がいて生徒がいて、黒板があってノートがあって…これが教育というものなのだと思います。日本にいるといろんな道具や情報があって、難しく考えてしまうけれども、タンザニアはいたってシンプル。でもこれが本質のような気がしました。



### 「バオバブと犬と男の子」

バオバブの木に感動してわーわー言っていた私たちの近くで「なんでこの木見て騒いでるの」と日常生活を送っている犬と男の子。とてもものどかでした。



「マリアちゃんとウエマちゃん」

農村訪問での一枚です。左の大きなお姉ちゃんがマリアちゃん、抱いてる子がウエマちゃん。ウエマちゃん、二か月と言っていましたが見た目と違いずっしりしていました。やっぱり子どもは皆かわいい。



「給食室にて」

子どものお昼のため、「ウガリ」を作っているところです。日本だと割烹着を着たおばちゃん、といったイメージですが、なんだか絵になる素敵な空間でした。



私の選んだ5枚

大貫 謙一（神奈川県立光陵高等学校）



「タンザニア家庭の庭先」

稲作地域の家庭に半日ほど滞在した際の庭先での団らん風景



「タンザニアの代表食ウガリ」

タンザニアで始めて食べたウガリ。その後ずっとお世話になりました。



「校歌を歌う生徒たち」

ムランディジ小学校の子供たちが校歌を元気よく歌う姿に感激





「マーケットに並ぶ野菜」

マーケットには予想以上にたくさんの食料が並び、にぎわっていた。



「キリマンジャロを眺めて」

美しいキリマンジャロ山の姿を眺めながらタンザニアの将来を考えた。

私の選んだ5枚

黄金井 貴徳（神奈川県立横浜清陵総合高等学校）



「カラフルな国タンザニア」

行く前はこんなに色鮮やかなところだと予想もしてなかった。みんなオシャレなんです。



「その先にあるものは…」

日本とタンザニア、共に未来を歩もう！って感じですが、サルがいただけです(笑)



「ついに来た！」

遠い海を越えてやってきた先生達。ここからが私たちの未来の始まり。





### 「笑顔畑」

ムランディジ小学校にて。たくさん子ども達が笑顔で走り寄ってきます。



### 「日本のコメ畑に黒人？」

一見日本のコメ畑ですが、実はこれタンザニアのコメ農家なんです！

## 私の選んだ5枚

諏訪 めぐみ（山梨県立甲府西高等学校）



### 「高層ビル」

日本の田舎にはない高いビル。初めて、アフリカに行きましたが、私の住んでいるところより、圧倒的に都会でした。



### 「深夜の街並み」

ホテルから眺めた深夜の様子です。

ダルエスサラームなのに、暗いという印象。しかし、一方で電力不足という事情を考えれば、こんなにも電気がついているという印象でした。





### 「ある日の昼食」

タンザニアのチキンは日本のチキンの数万倍、比べ物にならないくらい、美味しい。チキンを食べたくなったら、タンザニアに行こう！



### 「田舎の風景」

日本の風景と見間違ふような1枚です。田んぼ、鉄塔、日本と全く同じですが、でも、よ〜おくとみると、バオバブの木が…



### 「食事の支度」

家の女性全員で食事の支度。和気あいあいとコミュニケーションをとりながら、みんなで時間をかけ、愛情たっぷりの食事を作ります。食事を作るときは、カンガを腰に巻きます。

# 実践授業報告



※ この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の下に提供されたものを使用しています。

※ 参加者の先生、児童・生徒さんの原文をいかして掲載しております。一部ばらつきがありますが、ご了承ください。

# 知って、考えて、行動しよう

<b>実践場所</b>	神奈川県	横浜市立勝田小学校	<b>実践者</b>	工藤 隆太郎
<b>対象</b>	小学4年生		<b>時間数</b>	10時間
<b>担当教科</b>	小学4年生		<b>実践教科</b>	図工、道徳、総合
<b>ねらい</b>	他国、他者に対する思い込みや先入観に気付き、様々な角度から人や物事を見る大切さに気付く。世界の現状や出来事を知り、自分ができる行動、国際協力について考える。			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1	タンザニアってどんなところ？ タンザニアの場所を知り、イメージを膨らませる。		世界地図
	2	タンザニアってこんなところ フォトランゲージを通して、タンザニアのイメージを交流する。		タンザニアの写真 カンガ、マサイ布 ティンガティンガ
	3・4	Jumbo ティンガティンガさん ティンガティンガを鑑賞したことを生かして、ティンガティンガアートを描く。		
	5	世界がもし 100 人の村だったら 世界の現状を知り、感じたこと・考えたことを交流する。		パワーポイント 100 人村動画
	6	わたしたちの村を発展させよう 水道・電気・道路の3つのうち、まず整備すべきものは何か話し合う。		パワーポイント ワークシート
	7	もし電気が通ったら・・・ 自分の家に初めて電気が通ったら、何が優先的に必要か考える。		パワーポイント ワークシート
	8	お米で村を発展させよう 米作りのための支援を受けられるとしたら、上手に米作りをするために大事なことは何か考える。		パワーポイント ワークシート
	9	豊かにくらすために大切なものは？ ダイヤモンドランキングを通して、豊かにくらすために大切なものについて話し合う。		パワーポイント ワークシート
	10	地球人として考えよう 学んだこと、感じたことから今の自分にできること、10 年後の自分にできることについて考える。		ワークシート 世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ
	<b>成果</b>	タンザニアってどこ?から始まった子どもたち。一つ一つの活動を通してタンザニアを身近に感じ、行ってみたいという思いをもつようになった。それとともに、人や物事に対して様々な見方があることに気付き、他者との違いを素直に受け入れられるようになった。		
<b>課題</b>	小学校4年生が考えるには難しい課題も合ったように感じるが、4年生でも考えられるように設定や問いを工夫した。そういったことから、どの学年の児童に伝えていくかによって教材や問いをしっかりと吟味していくことが大切であると思う。			
<b>備考</b>	自分自身が実際に考えること、体験することが子どもたちに伝えていく上でとても大切なことだと改めて感じた。こういった実践をより多くの子に伝えていくためにも積極的に同僚の職員にも伝えていきたい。			



## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目 「タンザニアってどんなところ？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 世界地図を見てタンザニアの場所を調べる。
- ② タンザニアと聞いて思ったことや知っていること、イメージを出す。
- ③ 担任がタンザニアに行くことを知り、タンザニアの子どもたちに向けて折り紙やメッセージカードを書く。

#### この時限のねらい

タンザニアのイメージを膨らませたり、タンザニアの子どもたちに聞いて欲しいことを挙げたりすることで、タンザニアに興味をもつ。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 子どもたちは誰一人タンザニアの位置を知らなかった。名前すら聞いたことがないという子がほとんどであった。アフリカにある国ということや位置からどんなイメージをもつか出してもらうと、黒人、砂漠といった、暑いというイメージをもっている子が多かった。
- ◇ 折り紙やメッセージカード作りはとても熱心に楽しそうに行っていた。日本の有名なものを書こうと富士山を描く子が多かったが、タンザニアの国旗を調べ、両方の国旗を上手に並べて描く子もいた。

#### 3 使用した教材

<教材1>世界地図

<教材2>ワークシート



### 2 時限目 「タンザニアってこんなところ」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① グループに配られた5枚の写真のイメージを紹介する。
- ② そのイメージをもとにタンザニアだと思うものとそうでないと思うものに5枚の写真を分ける。
- ③ どれがタンザニアの写真であったかを知り、一番驚いた写真とその理由を全体で共有する。
- ④ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

#### この時限のねらい

タンザニアの実際の様子を知り、イメージしていたこととの相違点や共通点からタンザニアに対する思い込みや先入観があったことに気付く。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 事前にイメージしていたことをもとに、タンザニアだと思う写真を選んでいた子どもたち。初めからタンザ

ニアの写真を全て答えられたグループは一つもなかった。子どもたちが特に驚いていたのは、高層ビルが建っている都会的なものと日本の田園風景のような水田の写真であった。驚きながらも、タンザニアにも日本と同じように都会と田舎があるという特徴にも気付くことができていた。「タンザニアに行ってみよう！」「タンザニアのことをもっと知りたい。」などタンザニアに対してとても好意的な思いをもつようになった。

### 3 使用した教材

- <教材1>タンザニアの写真
- <教材2>カンガ、マサイ布
- <教材3>ワークシート



## 3・4 時限目「Jumbo ティンガティンガさん」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 実際のティンガティンガの絵を鑑賞し、いいなと思ったところ、すごいと思ったところを挙げる。
- ② そのイメージをもとに水彩絵の具でティンガティンガアートに挑戦する。
- ③ 友だちの作品を見合い、よさを伝え合う。

#### この時限のねらい

ティンガティンガから受けたイメージからタンザニアの素晴らしさを感じ、タンザニアに対して違った角度からイメージをもつことができる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇ ティンガティンガ村でクラス目標の看板を作ってもらった。子どもたちに披露をするととても子どもたちは喜んでいて、そしてティンガティンガの絵を見せた瞬間、子どもたちから「きれい！」「すごい！」という感嘆の声が上がった。また、「動物がたくさんいる。」やキリマンジャロを見て「富士山が何で描いてあるの。」とつぶやく子もいた。色が濃くはっきり使われていること、たくさんの色が使われていてカラフル、模様が細かい、動きがある、境界線がはっきりしているなどティンガティンガアートの特徴を熱心に捉えていた。実際に描く場面では、本物の絵を何度も見に来て色合いや描き方を確認しながら描く子もいるなど、一生懸命に絵を描いていた。描くことでよりその絵のすごさを感じているようだった。できた絵を見て、互いに褒め合う姿が見られるなど、満足した様子が見られた。芸術面からも国を知っていくということも大切であると感じた実践であった。

### 3 使用した教材

- <教材1>ティンガティンガ





## 5 時限目「世界がもし 100 人の村だったら」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界がもし 100 人の村だったら」から世界の現状や自分が置かれている状況について知る。
- ② 一番印象に残ったものとその理由を伝え合う。
- ③ ガーナのある子の実際の映像を見て、感じたことを交流する。
- ④ 「世界がもし 100 人の村だったら」の最後の部分を音読する。
- ⑤ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

#### この時限のねらい

世界の現状を知り、様々な視点から自分の置かれている状況を考えられるようにする。そしてその世界中のかけがえのない一人であるということに気付くことができる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本語を話す人が世界の中で言えば少ないこと、そしてその人数以上に食べ物や家、教育面で苦勞をしている人がいることを知り、「看板の文字を見て、何のお店か分かることが当たり前だと思っていたが、そうではないと思った。」など衝撃を受けていた。一方、子どもたちから見たら、貧しく辛い生活を送っているガーナの子の母親思い、弟思いの様子を見て、ただかわいそうではなく、すごい、自分にはできないというような思いももっていた。世界の現状を知り、自分たちの生活を俯瞰的に見ることができる貴重な機会となった。

### 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

<教材2>フジテレビDVD「世界がもし 100 人の村だったら」

<教材3>ワークシート

## 6 時限目「わたしたちの村を発展させよう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアのある村の状況を知る。
- ② 水道・電気・道路の3つのうち、まず整備すべきものは何か考える。
- ③ グループで話し合い、一つに決める。
- ④ 全体で意見を共有し、改めて個人で何を整備すべきかの意見を書く。
- ⑤ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

#### この時限のねらい

村の状況から、水道・電気・道路の3つのうち、まず整備すべきものは何かを考えることを通して、様々な角度から物事を考える大切さに気付くとともに、人によって考え方が違うことを理解する。

## 2 子どもの活動の成果・反応

◇ その村人になりきってというのは、難しかったかもしれないが、それぞれがとても一生懸命に考えていた。「水道に決まっているでしょ。」と大きな声を出していた子は、みんな誰もが同じ意見だと思っていたようで、違う選択肢を選んだ子がいたことにまず驚いていた。話し合いはとても活発に行われた。「水の大切さを感じ、感謝しなければと思った。」「それぞれの考えが違って驚いた。」「友達の意見を聞いて意見が変わった。」「どれか一つを変えることで、10年後にはとても楽しい国になっているかもしれない。」など、それぞれの大切さに気付くとともに、人によって考え方が違うということを身をもって感じていた。

## 3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真

<教材2>パワーポイント

<教材3>ワークシート



# 7 時限目「もし電気が通ったら…」

## 1 子どもの活動の流れ

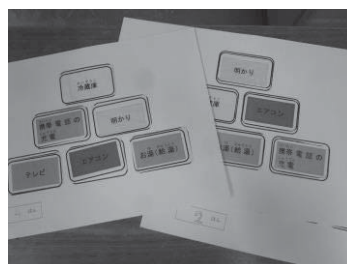
- ① タンザニアの電力状況を知る。
- ② 初めて電気が通ったら、何が優先的に必要かピラミッドランキングを行う。  
(明かり・エアコン・冷蔵庫・テレビ・携帯電話の充電・お湯)
- ③ グループで話し合い、グループのピラミッドランキングを決める。
- ④ 全体で意見を共有する。
- ⑤ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

### この時限のねらい

タンザニアの電力の状況を知ることを通して、日本が支援していること、そこで活躍する日本人がいることを知る。電気で使うものを通して、様々な角度から物事を考える大切さに気付くとともに、人によって考え方が違うことを理解する。

## 2 子どもの活動の成果・反応

◇ 初めてピラミッドランキングを行ったが、子どもたちは行い方をよく理解して活動できた。明かりを最も優先にするグループもあれば、それを最も優先しないグループもあり、一つとして同じグループがなかったことに驚いていた。子どもたちにとってはどれも普段当たり前のように使っているものであるが、活動を通して「電気が必要なものがいっぱいあることを知った。もっと節約したい。」「電気の大切さがすごく分かってよかった。」など電気の大切さを感じていた。また「どれが正解というのはないと思う。」「自分が必要だと思っていたものがそうでない班があり、考え方によって全然違うのでおもしろかった。」など、他者との意見の違いに気づき、それを受け入れる態度が見られた。



### 3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真

<教材2>パワーポイント

<教材3>ワークシート

## 8 時限目「お米で村を発展させよう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの米作りの状況を知る。
- ② 米作りのための支援を受けられるとしたら、上手に米作りをするために大事なことは何かピラミッドランキングを行う。  
(チームを作る・学校を作る・工場を作る・倉庫を作る・水路を作る・機械を手に入れる)
- ③ グループで話し合い、グループのピラミッドランキングを決める。
- ④ 全体で意見を共有する。
- ⑤ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

#### この時限のねらい

タンザニアの米作りの状況を知ることを通して、日本が支援していること、そこで活躍する日本人がいることを知る。上手に米作りをするために大事なことは何かを通して、様々な角度から物事を考える大切さに気付くとともに、人によって考え方が違うことを理解する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

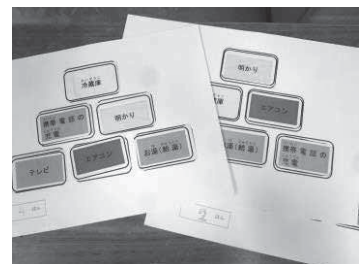
◇ 米作りの経験もなく、学習もしていない子どもたちにとっては難しい課題であると思ったが、とても熱心に考えていた。今回もどのグループも異なった意見が上がった。中には最後まで決めることができない班もあるなど、話し合いはとても活発に行われた。「何の事だって人の考えは、それぞれ違うと思った。」「みんなの言葉を聞くことによって気持ちが分かった。」「みんなの熱い思いに心が動かされた」など、人それぞれの意見の違いを受け入れて真剣に考えることができた。「米は急に作るができないし、いろいろな道具も必要で大変だと思った。」など米作りに対する苦勞に気づき、「育ててくれている人に感謝をして一粒一粒残さずに食べたい」など感謝の気持ちをもつことができていた。

### 3 使用した教材

<教材1>タンザニアの写真

<教材2>パワーポイント

<教材3>ワークシート





## 9 時限目「豊かにくらすために大切なものは…」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 今まで学んできたこと、感じてきたことを確認する。
- ② 豊かにくらすために大切なものについてダイヤモンドランキングを行う。  
(お金・教育・健康・友だち・食べ物・しゅみ・家族・平和・水、電気、ガス)
- ③ グループで話し合い、グループとして大切なもの3つを決める。
- ④ 全体で意見を共有する。
- ⑤ 改めて個人で、ダイヤモンドランキングを行う。
- ⑥ 授業を通して感じたこと、気付いたことを書く。

#### この時限のねらい

豊かにくらすために大切なものについて考えるを通して、人によって考え方や価値観が違うことを理解する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇ まさに自分自身にこととして今回は考えた。真剣に考えるがあまり、選べないという子やグループもあった。「全てが大切でかけがえのない存在だと思った。」「今日は本当に困ってしまった。」「当たり前だと思っていたことがとてもありがたく幸せだということが分かった。」など身近な存在について大切にしなければという思いを強めていた。また、「いつも好きだと思うものが以外と下の方だったり、そうでないものが上位に来ていたりしたのでびっくりした。」と自分自身の考え方について新たな思いをもつことができていた子もいた。さらに、「他の日本人や外国人は何を選んだのだろうか」という意見も出るなど、人それぞれにある物事の考え方に興味をもつようになってきた。

### 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

<教材2>ワークシート



## 10 時限目「地球人として考えよう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 今まで知ってきたこと、感じてきたことを確認する。
- ② 「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」を聞く。
- ③ 心に残ったことを共有する。
- ④ 今の自分にできること、10年後の自分にできることを書く。
- ⑤ 各自が発表する。

#### この時限のねらい

学んだこと、感じたことから今の自分にできること、10年後の自分にできることについて考え、行動していこうとする意欲をもつ。

## 2 子どもの活動の成果・反応

◇ タンザニアという国をきっかけに子どもたちは世界の現状や出来事を知り、各々が感じてきた。「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」は今まで様々なことを知り、感じてきたからこそより深く子どもたちの心に届いたようだった。「貧乏とはお金がないことだと思っていた。欲があり、いくらあっても満足しないことだということになるほどと思った。」「毎日の幸せを大切にしていこうと思った。」など心の持ち方について新たな考えをもっていた。そのことを踏まえ、今の自分にできることとして、「物を買う時は本当に必要かを考え、今持っているものを大切にしていきたい。」「家族や友だちを大切に楽しく過ごしたい。」「募金をちゃんと考えてほしい。」などという意見が出た。10年後できることとしては、「どんな職業になって周りの人を幸せにできるように一生懸命働きたい。」「募金をしっかり呼びかけたい」といった意見が出た。どの子も真剣に書き、意見を伝える様子から実際に行動するという思いを感じる事ができた。

## 3 使用した教材

<教材1>「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」

<教材2>ワークシート

## ■ 全体を通して

タンザニアという国をきっかけに子どもたちは世界の現状や出来事を知り、各々が感じてきた。小学校4年生の子どもたちにとっては今まで考えてきたことがないことだったと思う。アフリカという場所や豊かさに対する思い込みや先入観が崩れ、考え方は一つではないし、必ずしも答えがあるものだけではないということに気付くことや新しい考えをもてるようになった。物を大切にしたり、給食を残さないようになったり、ゴミを確実に分別するようになったりと実際の行動の変化も見られた。子どもたちの変化、いや成長は大変嬉しかった。授業をしながら大切だなと感じたことが2つある。やはり一つは、たくさんの事実と向き合うということである。なかなか教師が大切な思いや考え方を伝えても伝わらないが、事実を知る、見ることは子どもたちの心に届くものだと感じた。もう一つは、子どもたち同士が話し合い、交流することである。事実と向き合い、考えをもつことができた時、そこにはまだ思い込みがある。子どもたち同士がその思いを伝え合うことで新たな発見が生まれ、互いの考えが深まったり、違う角度から物事をとらえられたりするようになる。子どもたちが話し合う時の様子はいつになく真剣で白熱していた。今後もこういう子どもたちを一人でも多く育てていきたい。

## 1 授業の様子

<写真1> 日本を紹介するカード作り



<写真2> 自分の考えを書く



＜写真3＞話し合い意見を交流する



＜写真4＞全体で意見を共有する



## 2 参考文献・資料

- 1) 池田香代子＋マガジンハウス編「世界がもし 100 人の村だったら」2008 マガジンハウス
- 2) フジテレビ「世界がもし 100 人の村だったら ディレクターズエディション(DVD)」2009 ポニーキャニオン
- 3) くさばよしみ「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」2014 汐文社

以上



あなたならどうする？  
オリジナル発言から広がる世界へのステップ！

実践場所	神奈川県	横浜国立永田小学校	実践者	船山 美穂
対象	第5学年		時間数	25時間
担当教科	第5学年		実践教科	総合的な学習の時間、社会科、国語科など
ねらい	<p>○自分たちの生活は、さまざまな国や地域とのかかわりの中で成り立っていることを理解し、世界への興味関心を高める。</p> <p>○「知ること」の大切さ、面白さを体感し、理解を深めていくための力を養う。</p> <p>○タンザニアの生活や文化を知り他国に対する偏見や固定観念に気づき、異文化を理解しよとする心情を育てる。</p> <p>○タンザニアで活躍する日本人の存在や現地で行われている支援活動について学び、自分にできることはないかを自己に問いかけ、互いの考えを共有する。</p>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【タンザニアとの出会い(国語「広がる、つながる、わたしたちの読書」)】 ・『ただいま！ マラング村』の本を通して、“タンザニア”と出会う。		・『ただいまマラング村』 ・朝日新聞「アフリカ大陸 どんなところ？」
	2	【タンザニア(アフリカ)といえば？(総合)】 ・ブレーンストーミングを行い、“タンザニア(アフリカ大陸)”という国・地域を聞いて、感じたことを出し合う。		《ブレーンストーミング》
	3-4	【タンザニアとはどんな国だろう？(社会科「わたしたちのくらしと国土」)】 ・地図帳や資料集、図書室の本、またインターネットを使って集めた資料をもとに、“タンザニア”についてどのような特色がある国なのか調べる。		・「小学校 社会5」
	5	【タンザニアの友達に自分のことを紹介しよう！(総合)】 ・現地の小・中学校の同年代の児童・生徒に、自分たちのことを知ってもらうため、自己紹介カード(名前、好きなこと・もの)をつくる。		・現地で調達したティンガ ティンガアートの看板
	6	【タンザニアアートを知ろう(総合)】 ・アフリカに伝わる昔話や、ティンガティンガアートの歴史を知る。		・『しんぞうとひげ』
	7-8	【世界の食事から考えよう(総合)】 ・フォトランゲージを行い、タンザニアの食文化について知る。 ・タンザニアの小学生の好きな食べ物を知る。 ・もっと知りたいと思うことを出し合う。		・現地の写真・動画・イン ター
	9-11	【世界の食事を調べよう(社会科「米づくりのさかんな地域」・総合)】 ・タンザニアの小学生の好きな食べ物の中に「米」があったことの気づきから、世界の食事(米を中心に)について調べ、新聞にまとめて交流する。		・「小学校社会5」
	12	【タンザニアの米づくりを知ろう】 ・マボギニ村で出会った家族の生活を通して、タンザニアの米づくりを知る。		・現地の写真・動画・イン ター
	13	【わたしたちの村を発展させよう】 ・「水？電気？道路？」のアクティビティを行う。		
	14-15	【わたしの幸せ・あなたの幸せ】 ・「発展とは？」「発展の先には何かがあるのか？」を現状をもとに考える。 ・ダイヤモンドランキングを行い、「幸せ」のために必要なものに順位をつける。 ・マボギニ村の夫婦に聞いた「今、欲しいもの」について考える。		・《部屋の4隅》 ・『子どもたちの遺言』 ・『HAPPINESS IS...』
	16-21	【タンザニアの米づくりから考えよう】 ・KTACの日本人技術者がいること、タンザニアの米づくりの現状、課題を知る。 ・これまでの学習をもとに、解決策考えて「提案書」にまとめ、交流をする。		・現地の写真・動画・イン ター ・「小学校 国語5」
	22-25	【タンザニアで活躍する日本人】 ・タンザニアで活躍する日本人の存在や活動内容を知る。 ・「自分にできること」をテーマに考えを話し合い、理解を深める。		
成果	<p>年度当初、子ども達の中では日本から遥か彼方にある「アフリカ大陸・タンザニア」がだいぶ近い存在になったことは確かである。テレビや新聞、身近な情報の中でアフリカの他の国々の様子やタンザニアのことが取り上げられていると、興味を示す子が増えた。視野を広げるきっかけになった。</p>			
課題	<p>現地研修で得た膨大な情報(資料)をもとに、授業を組み立てたり、必要な情報を整理したりすることに時間がかかった。そのため、コンスタントに授業を進めていくことができず、子ども達の中に“タンザニア”のことが継続的に存在していかなかった。また、子ども達の視点として「日本と比べると…」「日本より…」と優劣をつけて考えることが多くなり、その先につなげる部分にじっくり取り組むことができなかった。</p>			
備考	<p>たくさんの情報の中から取捨選択、活用することが難しく、たくさんの時間を要した。アクティビティの種類、質の向上、目の前の子ども達に適した資料であるかも含め、どのように活用することができるのか、開発教育への理解を深めていきたい。今回、学級で扱ったタンザニアに関する写真や資料などを教室に掲示したことで、委員会やペア学年など、ほかの学年の児童も「どうのこと？」と興味を示していた。</p>			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1-2 時限目 「タンザニアとの出会い～“タンザニア(アフリカ)”といえど？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①前時までに聞いた『ただいま！マラング村』の本や、これまでの生活・学習を思い出して、“タンザニア(アフリカ)”についてイメージを膨らませた。
- ②ブレインストーミングを行い、“タンザニア(アフリカ)”についてのイメージを出し合った。
- ③出し合ったイメージをもとに、“タンザニア(アフリカ)”の印象をまとめて、「タンザニアとは〇〇〇」とタイトルをつけた。

#### この時限のねらい

タンザニアに興味をもってもらうことをねらいとした。また、自分の中にある“タンザニア(アフリカ)”のイメージを出し合い、共有することを大切にしたい。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

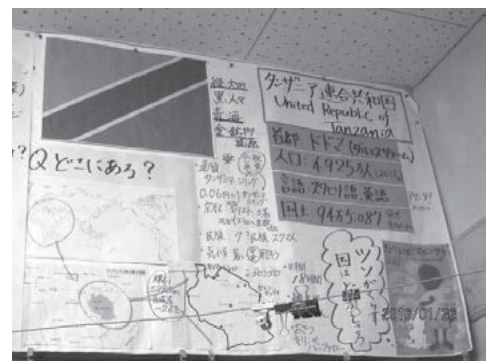
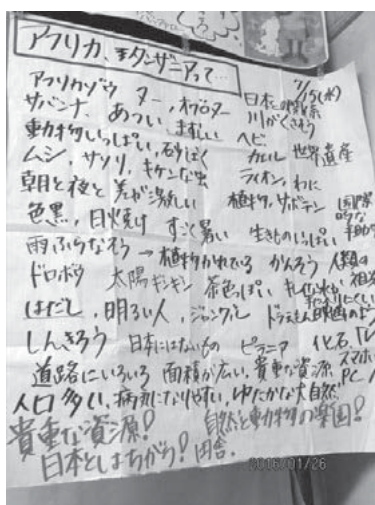
- ◇子ども達の中には、前時までに紹介した本の舞台であるマラング村の様子が色濃く残っていた。
- ◇「動物」「自然が豊か」「日本とは違う」という子ども達の素直な考えが出てきた。

#### 3 使用した教材

<教材1>佐々木田鶴子『ただいま！マラング村』 徳間書店 2013年9月9日

<教材2>2014年11月2日付、朝日新聞「アフリカ大陸どんなところ？」

<教材3>写真、みんなで出し合った「タンザニア」のイメージ <教材4>写真「タンザニアはこんな国」





## 5 時限目「タンザニアの友達に自己紹介をしよう！」

### 1 子どもの活動の流れ

- ①これまでに調べたり、交流をしたりして広がったタンザニアのイメージを確認した。
- ②海を越えて現地の小中学生に、自分のことを知ってもらうチャンスがあることを知る。
- ③現地の小中学生に、自分たちのどのようなことを知ってもらうかを出し合い、カードにかくことを決める。
- ④自己紹介カードをつくる。

### この時限のねらい

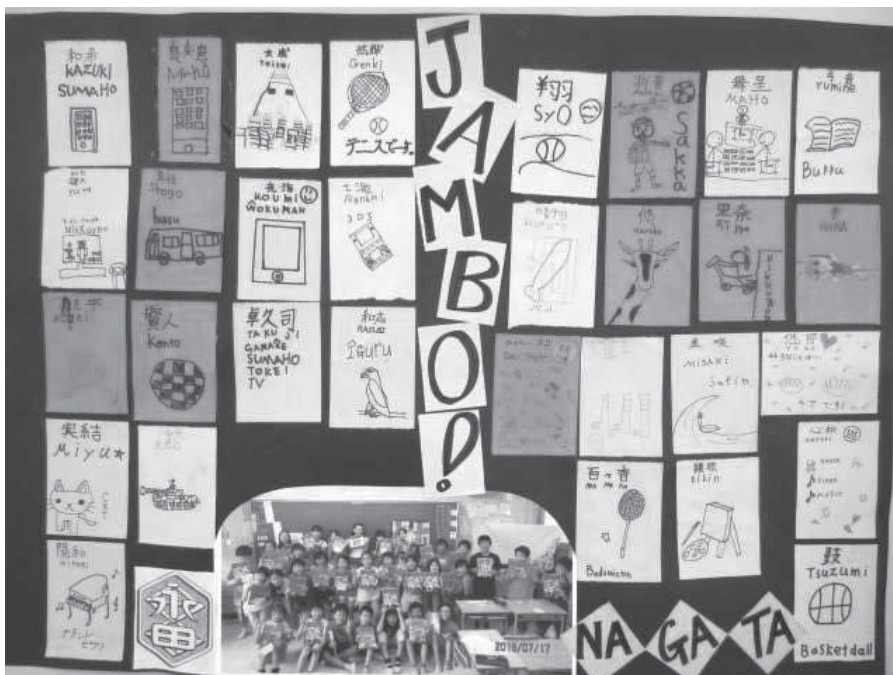
タンザニアの小中学生に、自分たちのことを知ってもらおうという意識を高めることをねらいとした。どのような形で伝えたらよいか、相手のことを想像し、考えて取り組めるようにする。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「タンザニアの友達にみんなのことを知ってもらうために、自己紹介カードをつくらうか？」という話になった時の子どもの反応はとてもよかった。一部で「本当にできるの？」という半信半疑な部分を見せる子もいた。具体的にどのようなことをかいたらよいかを話し始めると、クラス全体が一気にわくわくした空気に変わった。
- ◇「日本語で分かるのかな？」「タンザニアの言葉でかいた方がいいのかな？」と会ったことのない現地の小中学生のことを想像して日本語やローマ字、絵を使って、一生懸命伝えようとする姿が多く見られた。

### 3 使用した教材

<教材5>写真、現地の友達に向けて「自己紹介カード」をつくりました



**1** 子どもの活動の流れ

- ①10 食分の食事の写真を見る。
- ②どこの国(選択肢あり)の食事かを考える。その際、理由も明らかにすることを伝える。
- ③グループで意見交換する。
- ④各グループの考えを、クラス全体で交流する。
- ⑤どこの国の食事かを知らせ、その国の食文化の特徴をつかむ。
- ⑥「今、どの食事を食べたいか？」を考え、理由とともに意見交換する。
- ⑦全体で 10 食分の食事の写真から、どのようなことを感じたか、ふり返る。

**この時限のねらい**

フォトランゲージを行い、写真から得られる情報をもとに、その国の食文化について考えることをねらいとした。また、自分たちの中にある、国ごとのイメージと実際を比較することができるようにする。

**2** 子どもの活動の成果・反応

- ◇写真から得られる情報をもとに、選択肢の中のどの国の食事なのかを一生懸命考えていた。食事の内容だけでなく、その背景にも目をやり、食器やテーブルの様子などを理由に挙げる子もいた。
- ◇「今、どの食事を食べたいか？」を聞いてみると、半分以上の子どもが日本でも見慣れ、食べ慣れたハンバーガーに手を挙げた。その理由は「日本と同じだから。」「食べたことがあるから。」という、知っているものへの安心感が多かった。また逆に、「日本と同じもののように見えるけれど国によって味が違うかもしれないから…」という理由もあった。
- ◇タンザニアの食事については、「いろいろな食材がある。」「さまざまな料理がある。」「タンザニアの人もご飯が好きようだ。」「日本と同じようなものを食べている。」と驚いた様子であった。
- ◇タンザニアに限らず、ほかの世界の国々の食事について知りたいと、子ども達の興味・関心が高まり、自分が興味をもった世界の国々の食事について調べる活動につながった。

**3** 使用した教材

<教材6>写真、世界の食事から考えよう





### 1 子どもの活動の流れ

- ①教師がたずねたマボギニ村の様子を写真や動画を見て知る。
- ②マボギニ村のある家族を通して、家族構成や生活の様子(一日の流れ)、家族の役割分担などについて考える。
- ③ある村の現状をもとに、「わたしたちの村を発展させよう」をテーマに、10年後の村の発展のためには水道、電気、道路のうちどのプロジェクトが必要かを考える。
- ④グループで交流し、水道、電気、道路の中から一つ選ぶ。選んだ理由も明確にする。
- ⑤各グループの意見を、クラス全体で交流する。

#### この時限のねらい

タンザニア・マボギニ村のある家族の生活を通して、家族構成や生活の様子、家族の役割分担などを知る。発展とは何か、発展のために必要なことは何かを、自分事として考えられるようにする。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇子ども達の感想を見てみると、その感じ方はさまざまであった。「タンザニアの人たちは苦勞している。」「貧しい生活をしていて大変…」「かわいそう」というもの、「まったく暮らしが違う…」「日本で当たり前だと思っていたものが、そろっていない国もある」というものが半分くらいの割合を占めていた。

◇その一方で、「ほかの班の人の意見を聞いたら、どれも必要だと思った。」「どれがよいのか(まずは取り組むべきなのか)決められなかった。」「どれも大切に、難しい…」「意見が違って、班の意見をまとめるのが難しかった…」など、ワークショップに取り組んだ感想を述べる子もいた。

◇この授業を行った日に、家に帰ってから家族で同じテーマで話をした、と話す子がいた。家族の中でも意見の違いがあったようで、納得できること・疑問に残ることが生じて、さらに考えが深まったようだった。

### 3 使用した教材

<教材7> パワーポイント「村を発展させよう」

1 子どもの活動の流れ

- ①「あなたの今の“幸せ”度は何%？」について、自分の考えを交流する。
- ②本時の学習テーマ「わたしの幸せ・あなたの幸せ ぼく・わたしたちが 20 歳を“幸せ”にむかえるために必要なもの(こと)は何だろう？」を確認する。
- ③ダイヤモンドランキングを使って、“幸せ”のために必要なもの(こと)に、順位をつける。
- ④グループやクラスで共有し、それぞれの意見を交換する。
- ⑤教師がタンザニアのマボギニ村で出会った夫婦に聞いた「今、ほしいものはありますか？」の答えについて考える。
- ⑥感じたこと・考えたことを交流する。
- ⑦『HAPPINESS IS…幸せを感じる 500 のこと(2015 年 8 月 28 日発行、リサ・スウェーイング、ラルフ・レザー著、三上明日香(文響社)訳)』の紹介を聴く。

この時限のねらい

「わたしの幸せ・あなたの幸せ」をテーマに、①幸せの感じ方は、人それぞれであることを実感することができるようにする、②タンザニアの人々も、日々の生活を大切に、幸せを感じていることを知る、③「貧しいことや不便であること」が悲しいことではないことに気づくことができるようにする。

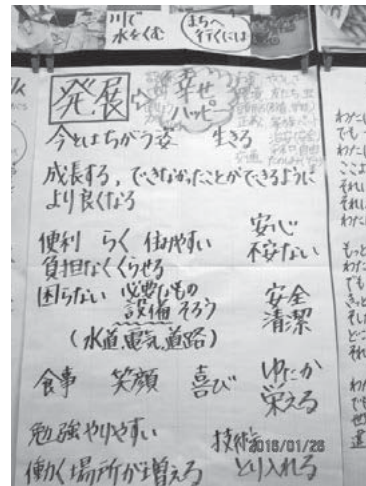
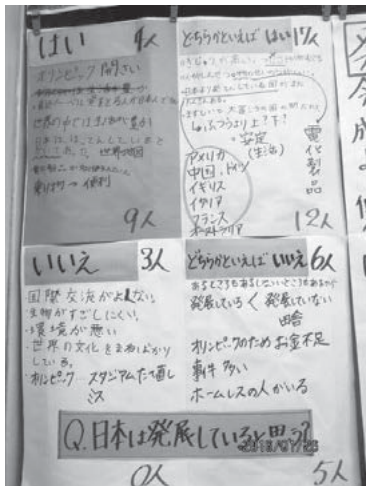
2 子どもの活動の成果・反応

◇普段、あまり考えることがないと思われる「幸せ」について、子ども達一人ひとりが一生懸命考えていた。  
 ◇一人ひとりの考え方(ランキングのつけ方)に「なるほど！」や「難しいなあ…」と自分と比べて考えを深めていた。  
 ◇「世界には困っている人がいる。」「タンザニアの人たちは苦勞している。」「貧しい生活をしていて大変…」  
 「かわいそう」という思いが強くある子どももいた。そのため、タンザニアを中心に、発展途上国の現状やその可能性、また発展途上国と日本・日本人とのかかわりなどについて、学びを深めたいと思った。

3 使用した教材

<教材8>写真、「日本は発展しているのかな？」

<教材9>写真、“発展”の先にあるものは？





<教材10>谷川俊太郎、田淵章三『子どもたちの遺言』 佼成出版社、2009年1月

<教材11>マボギニ村の家族の暮らしの様子を撮影した写真



<教材12>リサ・スウェーイング、ラルフ・レザー著、三上明日香(文響社)訳

『HAPPINESS IS…幸せを感じる500のこと』 文響社 2015年8月22日

## 16-21 限目 「タンザニアで活躍する日本人」

### 1 子どもの活動の流れ

- ①マボギニ村の家族の生活をふり返る。
- ②タンザニアの米づくりの現状について、写真や動画をもとに知る。
- ③なぜ、タンザニアで米づくりを行うようになったのか、資料をもとに考える。
- ④タンザニアの米づくりには日本の支援が関係していることを知る。
- ⑤タンザニアの米づくりに携わる日本人について、どんな思いで取り組んでいるのか考える。

### この時限のねらい

タンザニアの米づくりについて、自分たちの米づくりの経験を思い出しながら考えられるようにした。また、遠くタンザニアの地で日本人が活動していることを知るきっかけにしたい。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇タンザニアの田畑の風景が日本とほとんど変わらないことに驚いていた。「これ、本当にタンザニア？」という声も聴かれた。

◇機械がほとんど使われず、人の手で行われていること…しかも田植えの作業は多くの女性が分担していることなどは、子ども達にとっても衝撃的であったようで、「なんで？なんで？」と考えるきっかけになっていた。

◇タンザニアの米づくりの課題については、すべての課題を考えるのは難しいが、自分たちの体験や調べた

ことから自分にできる解決策を提案する活動につながったことは大きい。タンザニアの国の現状を再確認すること、気候や土地柄などを調べ直すことなどから、新しい活動が始まった。

◇同じ時期に国語では、伝記を読んで自分の生き方について考える学習に取り組んでいた。偉人の言葉や業績をもとに、自分の生き方を見つめ直す活動であったため、自分の将来を見つめるきっかけにつながるとよい。

### 3 使用した教材

＜教材13＞写真、「田植えをする女性の姿」



＜教材14＞写真、「本当にタンザニア？」子ども達が驚いた田園風景



## 1 授業の様子



<写真1> <教材4>写真「タンザニアはこんな国」

<写真2> <教材5>写真、現地の友達に向けて「自己紹介カード」を作りました

<写真3> <教材8>写真、「日本は発展しているのかな？」

<写真4> <教材9>写真、「発展」の先にあるものは？

## 2 参考文献・資料

1) 佐々木田鶴子『ただいま！マラング村』 徳間書店、2013年9月9日

2) 2014年11月2日付、朝日新聞「アフリカ大陸どんなところ？」

3) モハメッド チャリンダ (イラスト)、Mohamed Charinda (原著)、しまおか ゆみこ

『しんぞうとひげ』 ポプラ社、2015年4月8日

4) 島岡由美子 (著)、モハメッド・チャリンダ(イラスト)

『アフリカの民話～ティンガティンガ・アートの故郷、タンザニアを中心に～』 バラカ、2012年4月29日

5) 江口一久 (著)『語りつぐ人びと・アフリカの民話』 福音館文庫、2004年1月20日

6) 谷川俊太郎、田淵章三『子どもたちの遺言』 佼成出版社、2009年1月

7) リサ・スウェーイング、ラルフ・レザー著、三上明日香(文響社)訳

『HAPPINESS IS…幸せを感じる500のこと』

以上



# 世界の人々とともに生きる

実践場所	県	神奈川県	実践者	平野 沙和
対象	小学6年生		時間数	10時間
担当教科			実践教科	社会科
ねらい	日本や世界の人々がさまざまな形で国際交流や国際協力を行っていることや、平和な社会の実現に向けて努力していることを調べ、残されている問題にも目を向けながら、今後、国際社会の中で日本が世界に果たすべき役割について考えることができるようにする。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【タンザニアってどんな国？】 タンザニアについて知っていることを出し合い、イメージをもつ。		・第6 学年社会科教科書 (教育出版)
	2	【タンザニアの人々はどのような生活をしているのだろう。】 写真から、タンザニアの様子を想像する。		・旅の指さし会話帳スワヒリ語(情報センター出版局) ・タンザニアの写真 (フォトランゲージ用)
	3	【タンザニアは、なぜ多くの国から支援を受けているのだろう。】 タンザニアの現状をつかみ国際協力の必要性について考える。		・タンザニアの教科書 ・カンガ ・ティンガティンガ
	4	【国が発展していくためにはどのような支援が必要なのだろう。】 国の発展に大切なことや国際協力の在り方について考える。		
	5	【国際協力の機関には、どのようなものがあるのだろう。】 日本がさまざまな形で国際協力を行っていることをつかむ。		
	6	【日本の人々は、世界でどのような役割を果たしているのだろう】		
	7	世界の平和や環境を守るための日本人の取り組みを調べる。		
	8	【子どもたちが学校に通うには？】 様々な立場や考え方の人と理解し合いながら協力して進めていくことが、よりよい国際協力につながることに気づく。		・ゲストティーチャー JICA職員
	9	【地球環境を守るため、人々はどのような努力をしているの？】 持続可能な社会を目指すことの重要性をつかむ。		・「世界一貧しい大統領のスピーチ」 (汐文社)
10	【住みよい社会をつくるために、私たちに何ができるだろう。】 これからの国際協力の在り方を主体的に考える。			
成果	日本との違いだけではなく共通点にも目を向けていくことで、世界の人々のことを身近に感じながら具体的に国際協力について考えていくことができた。人々が、互いに意見を交流し理解し合うことが、よりよい社会へと結びついていくのだという考えをもった児童が多かった。			
課題	タンザニアから持ち帰った「物」や「写真」などの素材を、どのように授業で取り入れ活用していくのか悩んだ。今回は、紹介程度になってしまったが、そこから広げていく授業展開も考えられたように思う。教材として扱う難しさを実感した。			
備考	JICAの方に来ていただき国際協力についての話を聞いたり、自分たちの作ったカードがタンザニアの子どもたちに届いたことを伝えたりすることで、子どもたちの興味が深まっていた。体験的に学習していくことの大切さを実感した。			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目 「タンザニアってどんな国？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアについてのアンケートを行う。
- ② それぞれのイメージを共有する。
- ③ タンザニアの子どもたちへ、メッセージカードを作る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

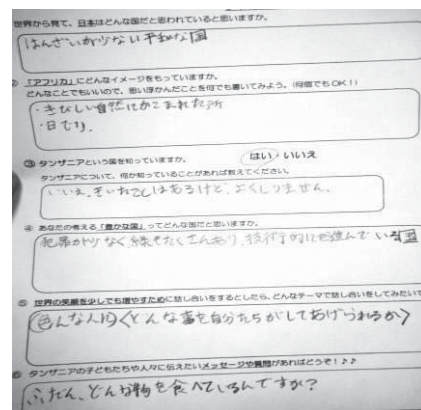
- ◇ タンザニアについて、「サバンナ」「自然がたくさん」「動物たちと一緒に暮らしている」などのイメージが出た。いずれも、タンザニアというよりは、「アフリカ」の国として考えていた児童が多かった。担任がタンザニアに行くことを伝える、はりきってメッセージカードを作成していた。

#### 3 使用した教材など

- ・世界地図
- ・折り紙、画用紙
- ・アンケート
- ・タンザニア国旗

#### この時限のねらい

タンザニアについて知っていることを出し合い、どんなイメージをもっているのか明らかにする。



〈アンケート〉

### 2 「タンザニアの人たちはどのような生活をしているのだろう。」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① フォトランゲージでタンザニアの様子を知る。
- ② カンガや教科書などにふれる。
- ③ タンザニアのイメージの before と after を整理する。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めにもっていたイメージと違ったようで驚いていた。ビルや道路の様子、町を歩く人の服装などを見て、親近感がわいたようだった。児童に感想からは、「〇〇だと思っていたけど、意外と～。」という言葉が多く聞こえた。日本との共通点がたくさんあり、タンザニアの人々をより身近に感じるきっかけとなった。「豊か」「幸せ」というキーワードが出てきたので、次の時間につなげていく。

#### この時限のねらい

タンザニアの写真から、タンザニアがどのような国か想像し考えられるようにする。日本との共通点や豊かな文化があることに気づくことができるようにする。

3 使用した教材等



〈ティンガティンガ〉



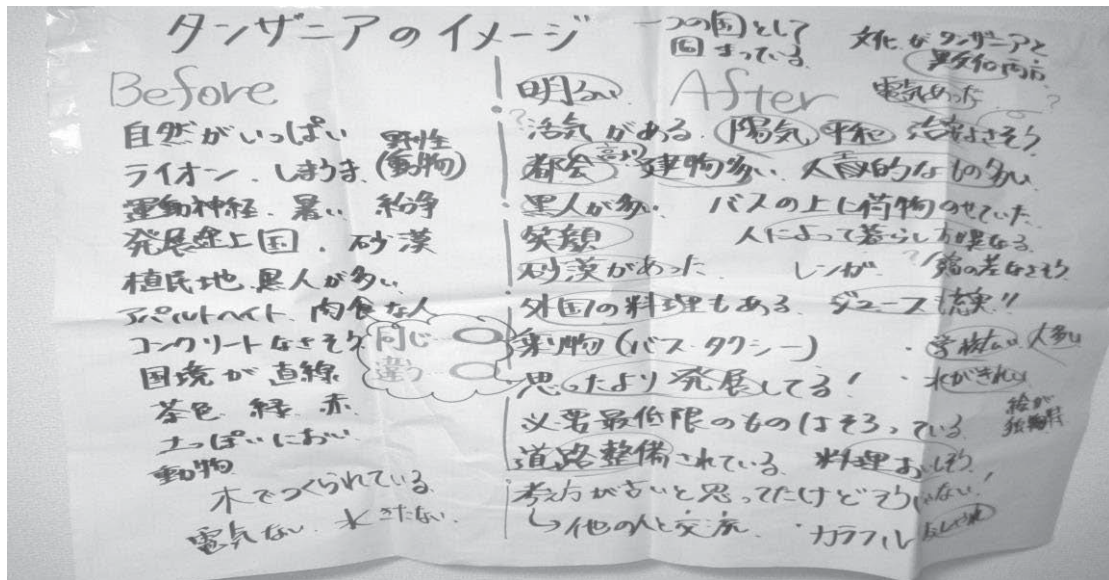
〈タンザニアの教科書〉



〈カンガ・シュカ〉



〈タンザニアの風景の写真〉



〈タンザニアイメージ before ★after〉



## 1 子どもの活動の流れ

- ① インターネットでタンザニアの現状を調べる。
- ② 支援を必要としている理由について考える。
- ③ 国際協力の必要性をつかむ。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前回の授業で、「タンザニアは、豊かで幸せな国」だと思った児童が多かった。しかし、タンザニアが多くの国から支援を受けていることを知ると、たちまち「なぜだろう」という気持ちが浮かんできた。ここから、「タンザニアはなぜ多くの国から支援を受けているのだろう。」を学習問題とし、授業が展開していった。インターネットを使って調べるうちに、健康や就労、進学率の低さなどの現状を知り、都会のビル群の様子との違いにとまどっている様子が見られた。子どもたちの感想からは、「一つの国でも、豊かな面とそうでない面がある。」「まだ課題はたくさんあるが、少しずつ発展してきている。」「子どもたちが労働しなくてもいいように、何とかしなければならぬ。」などが挙げられた。また、タンザニアの豊かな文化などを守りながら、支援をしていくことが大切だということ考えた。

## この時限のねらい

資料をもとにタンザニアの国の現状をつかみ、支援を必要としている理由について考えられるようにする。国際協力の必要性をつかむ。

## 3 使用した教材等

・ユニセフHP

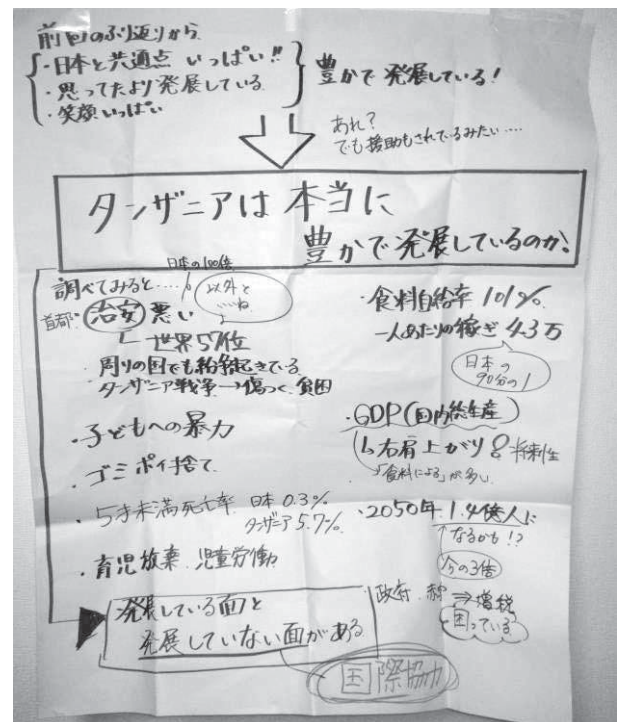
[http://www.unicef.or.jp/children/children\\_now/select.html?tag=tanzania](http://www.unicef.or.jp/children/children_now/select.html?tag=tanzania)

・JICA HP

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

・プラン・ジャパンHP

[https://www.plan-japan.org/country/cop\\_tanz.html](https://www.plan-japan.org/country/cop_tanz.html)



〈タンザニアの現状について調べてみると…〉

### 1 子どもの活動の流れ

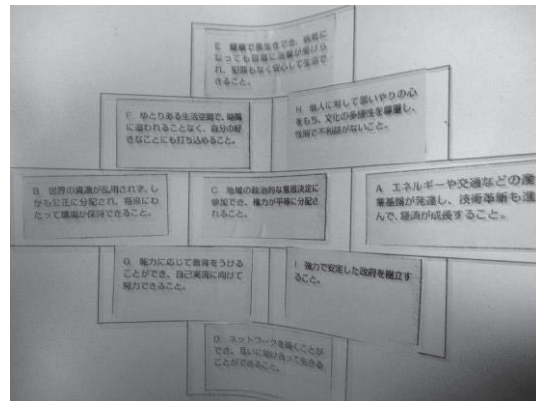
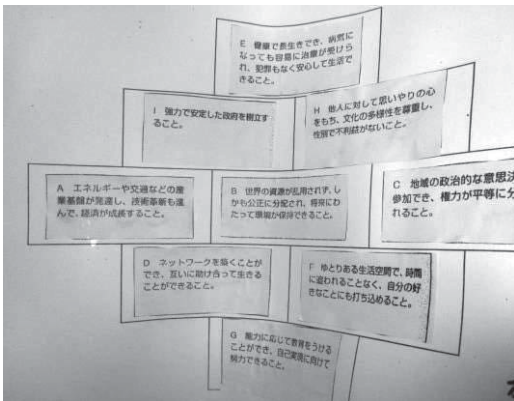
- ① 本時のめあてを確認する。
- ② 「開発とは何か」ランキングをする。
- ③ グループ・全体で共有する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

一つ一つの選択肢を吟味し、よく考えてランキングにしている様子が見られた。「どれも大切だから選べない。」「難しい。」と悩んでいる姿が印象的であった。グループで話し合いが始まると、「考えを相手に伝えたい」という思いから、議論が白熱していった。グループごとの話し合いの結果を黒板に掲示してみると、それぞれのグループで違って、一つとして同じものはなかった。中には、時間内にランキングが決まらなかったグループもあった。授業のふりかえりでは、開発とはただ経済的に豊かになることだけではなく、様々な視点で考えていくことが大切だということを、全体で共有することができた。

#### この時限のねらい

「開発とは何か」のダイヤモンドランキングを通して、国が発展していくためにどのようなことが大切なのかを考え、そこから国際協力の在り方について考えられるようにする。



〈開発とは ランキング〉…9つすべての班が違う結果になった。

### 3 使用した教材

・文献『開発教育実践ハンドブック』 DEAR開発教育協会 より抜粋  
→教材15 「開発とは何か」

## 5 時限目「国際協力の機関には、どのようなものがあるのだろうか」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 教科書やインターネットを使って、国際協力の機関について知る。

【キーワード：国際連合・JICA・NGO・NPO・ユニセフ・ODA  
・青年海外協力隊】

### 2 子どもの活動の成果・反応

さまざまな国際協力の機関があることを調べ、それぞれが目的をもって活動していることを知る事ができた。機関による目的の違いや活動を整理しながら確認していった。

#### この時限のねらい

国際協力の機関について調べ、日本がさまざまな形で国際協力を行っていることをつかむことができるようにする。

## 6-7 時限目「日本人の人々は、世界でどのような役割を果たしているのだろうか」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 世界で活躍する日本人の活動を調べる。(タンザニアで活躍する日本人についても)
- ② その方たちの思いに気付く

### 2 子どもの活動の成果・反応

世界の人々の健康や安全を守ったり、平和を守ったりするために、多くの日本人が思いをもって活動していることに気付く事ができた。そのような日本人に誇りをもち、「自分も国際協力で何か役に立ちたい」と考えた児童もいた。

#### この時限のねらい

世界で活躍する日本人の活動を調べ、世界の平和や環境を守るために日本がどのような取り組みをしているのかをつかむ。また、その人たちの思いに気づく。

### 3 使用した教材等

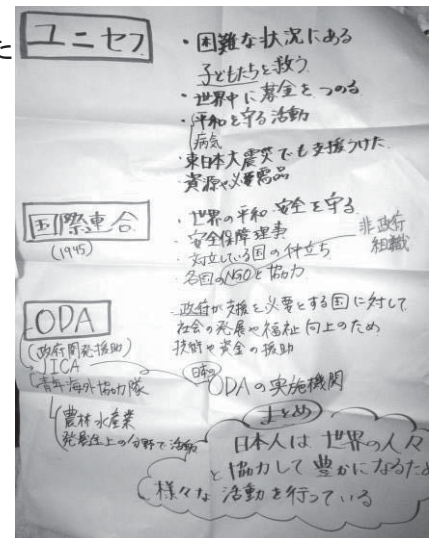
・教科書、資料集(青葉出版 6年社会科)、インターネット

タンザニアで活動している日本人の写真

## 8 時限目「学校に通うために必要なのはどれ？」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの教育事情を知り、学習問題を立てる。
- ② 現場で支援を必要とする立場に立って、グループで考える
- ③ 全体で交流し、ふりかえる。



#### この時限のねらい

国際協力の現場で起きている葛藤や支援の難しさについて実感し、さまざまな立場や考え方の人と協力しながら進めてい

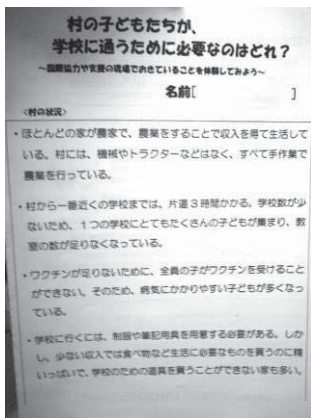


## 2 子どもの活動の成果・反応

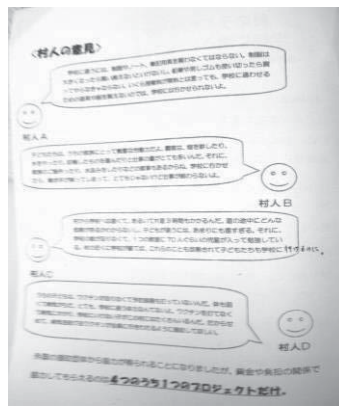
4人の立場の違う村人の言葉をよく読んで考えていた。「学習用具の支援」は、「それだけでは解決できない。」という考えから、選んだ児童はほとんどいなかった。機械や浄水器・近くに学校を立てる・ワクチンの接種の3つについては、同じ数ぐらいの児童が選んでいた。考えをしっかりとって話し合いに臨んだため、簡単に友だちの意見に流されることなく議論していた。グループで1つに絞るのは、とても難しいと感じているようだった。授業のふりかえりでは、「支援は、資金や住民の思いなど、さまざまなことを考えていかなければならないむずかしさがある。」「違う考えの人がいるからこそ、話し合いが深まりよりよいものを見つけられる。」などの感想をもった児童がいた。

## 3 使用した教材等

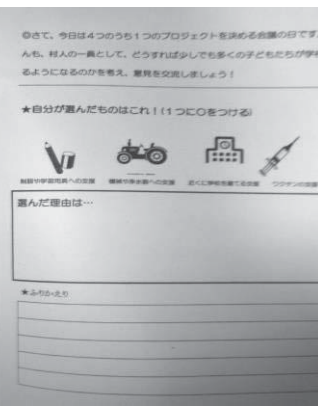
・作成したワークシート「村の子どもたちが、学校に通うために必要なのはどれ？」



<表紙>



<中>



・作成したパワーポイント



ねらい：地球環境をめぐるさまざまな問題を調べ、持続可能な社会を目指すための重要性をつかむことができるようにする。

ねらい：伝統文化やスポーツなどを通じた世界各国の交流の様子を調べ、相互理解の必要性を理解し、これからの交流の在り方について主体的に考えることができるようにする。

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

子どもたちにとって、テレビ番組やインターネットで世界の情報にふれることは珍しいことではないが、それを主体的に自分事としてとらえ考えていくという機会は少ない。今回、授業を行ってみて、問題意識をもちながら意見を交流し合って考えを深めていくという、参加型の学習の大切さを改めて実感した。授業が後半になるにつれ、自分の考えをしっかりとったり、友だちと意見を伝えあいながら問題を解決しようとしたりする姿が見られるようになった。このような姿勢は、子どもたちが将来、国際交流や国際協力をしていく立場になったときにとても生きてくるのではないだろうか。実際にタンザニアに行き、そこで見た様子から教材や授業の組み立てを考えることで、担任自身も思いをもって授業に臨むことができた。タンザニアから教材を考えるというオリジナリティーを入れながらも、「社会科」の目標からぶれないように心掛けた。教材を選ぶことの大変さや、議論を深めていくにはどのような声掛けがよいのかなど、まだまだ課題は残る。今回の授業をばねにして、今後もさらに開発教育についてアンテナを張りながら過ごしていけたらと考えている。

### 2 参考文献・資料

- 1) ユニセフ  
[http://www.unicef.or.jp/children/children\\_now/select.html?tag=tanzania](http://www.unicef.or.jp/children/children_now/select.html?tag=tanzania)
- 2) JICA  
<http://www.jica.go.jp/tanzania/>
- 3) プラン・ジャパン  
[https://www.plan-japan.org/country/cop\\_tanz.html](https://www.plan-japan.org/country/cop_tanz.html)
- 4) 第6学年社会科教科書(教育出版)
- 5) 宮城裕見子 『旅の指さし会話帳60 スワヒリ語』2005 株式会社情報センター出版局
- 6) くさばよしみ 『世界一貧しい大統領のスピーチ』2014 汐文社
- 7) 『開発教育実践ハンドブック』2003 DEAR開発教育協会
- 8) 6学年 社会科資料集 (青葉出版)
- 9) 「私たちの村を発展させよう」2014年 教師海外研修生作成ワーク
- 10) 世界国際フォーラム <http://www.unesco.or.jp/terakoya/news/2015/8361530102106.html>

# せかいを知ろう、考えよう

実践場所	神奈川県	座間市立立野台小学校	実践者	山岸真喜子
対象	小学2年生		時間数	8
担当教科			実践教科	道徳・学活・図工
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアの生活や文化に触れ、異文化と関わる楽しさを知る。</li> <li>・世界の人々の現状や願いを知り、「幸せ」とは何か考える。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【アフリカって、どんなところ？】 自分たちの持っているアフリカのイメージを共有する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
	2	【タンザニアの人にプレゼントを作ろう！】 メッセージカードとぶんぶんゴマを作る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙、折り紙</li> <li>・牛乳パック等</li> </ul>
	3	【どれがタンザニアのしゃしんでしょう？】 フォトランゲージを通して、自分たちの持っているタンザニアのイメージと、実際の様子の違いを知る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真</li> <li>・パワーポイント</li> <li>・楽器、カンガ等</li> </ul>
	4	【食べものについて考えよう！】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> </ul>
	～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたしたちの村で、じょうずに米づくりをしよう！」のワークに</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地球の食卓」のカードを一人一枚ずつ配り、気づいたことを書く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地球の食卓」のカード</li> </ul>
	6	【電気について考えよう！】 ・「もし、電気が通ったら・・・？」のワークに取り組む。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
	7	【タンザニアの友だちに聞いてみよう！】 ・タンザニアの小学生に向けて、質問したいことを考える。 ～1月以降、継続して取り組む予定		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
8	【しあわせにくらすために、大切なものは？】 ・「しあわせにくらすために、大切なものは」のワークに取り組む。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	
成果	<p>児童にとって、世界には、自分たちが暮らしている日本とは異なる状況で生活している人々がいることに気づく機会になった。また、それぞれのワークを通して、自分や友だちの考えに真剣に向き合う時間を作ることができた。低学年には難しい課題もあったが、こちらで説明を加えることである程度理解し、取り組むことができた。</p>			
課題	<p>電気や農業の話聞き、「かわいそう。」という感想を持つ児童がいた。タンザニアに対し、マイナスイメージを持ってしまうことは残念なので、改善するために今現在どのようなことに取り組んでいるのか等、明るい話題も伝えていきたい。</p>			
備考	<p>「タンザニアの友だちに聞いてみよう！」の学習は、タンザニアの学校の夏休みが終わったら再開する予定。児童たちが興味をもって取り組める内容を作りたい。</p>			



## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目 「アフリカって、どんなところ？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 絵本の読み聞かせを聞く。
- ② アフリカに対するイメージを班で話し合う。
- ③ 班で出た意見を全体で共有し、模造紙にまとめる。
- ④ タンザニアの様子分かる映像を見る。
- ⑤ 教師にタンザニアで何を見たり、聞いたりしてきてほしいか伝える。

#### この時限のねらい

自分たちの持っている「アフリカ」に対するイメージを、共有する。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇児童は、「アフリカ」についての知識やイメージそのものがほとんどなく、未知の「アフリカ」について想像することに苦戦していた。印象を聞くと、「裸足」「わらの家」「いつも晴れている」「木登りをしている」…等が出た。

◇教師に見たり、聞いたりしてきてほしいことには、「給食はどんなものか。」「歌は歌うか。」「動物や虫を見に来てほしい。」「公園はあるか。」「チョークはあるか。」「車はどんな車か。」等、たくさん出た。

#### 3 使用した教材

<教材1>文 ケリークネイン 訳 児島希里 「ぼくの大好きなケニアの村」2007年(BL出版)

<教材2>フジテレビ「世界行ってみたらホントはこんなトコだった」タンザニア前編 2014年9月10日

### 2 時限目 「タンザニアの人にプレゼントを作ろう！」

#### 1 子どもの活動の流れ

タンザニアの学校に贈る、カードとぶんぶんゴマを作る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇初めて書くスワヒリ語に戸惑いながらも、楽しそうに折り紙を切ったり貼ったりしながら作っていた。

#### この時限のねらい

タンザニアの人に、日本の文化を知ってもらえるよう心をこめてプレゼントを作る。



写真:「作成したプレゼント(カランガ小学校にて)」

#### 3 使用した教材

<教材3>宮城裕見子「旅の指さし会話帳 60 ケニア スワヒリ語」2012年(情報センター出版局)

<教材4>武田真理恵「紙の工作大百科②カードと小物を作ろう！」2005年(あかね書房)

### 3 時限目「どれがタンザニアのしゃしんでしょう？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 配布された6枚の写真カードを見て、その写真がタンザニアの物かそうではないかを班で話し合い、理由を手持ちのホワイトボードに書く。
- ② 全体で発表する。
- ③ パワーポイント資料で、タンザニアの都会と農村の映像を見る。
- ④ 気づいたことや感想をワークシートに記入する。

#### この時限のねらい

タンザニアにも、都会と農村のように様々な場所があることを知る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇写真が〈タンザニアである〉と答えた理由には、「川で水汲みしている。」「馬で荷物を運んでいる。」「家が古くさい。」、〈タンザニアではない〉と答えた理由には、「海があるから。」「アンテナがある。」「ハワイみたい。」「車がいっぱい。」等があった。

【児童の感想より】

- ・タンザニアにもケンタッキーがあるなんて初めて知った。
- ・日本とタンザニアには、似ているところがある。
- ・きれいな布がたくさんある。
- ・車があった。
- ・タンザニアに行きたくなった。

### 4-5 時限目「食べものについて考えよう！」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニア(ムランディジ小学校)で行った「すきな食べもの」のアンケートの結果をパワーポイント資料で見る。
- ② タンザニアの食文化を知る。
- ③ TANRICEでの米作りの様子をパワーポイント資料で見る。
- ④ 「わたしたちの村で、じょうずに米作りをしよう！」のワークに取り組む。
- ⑤ 班で話し合った結果を発表する。
- ⑥ 一人一枚配られた「地球の食卓」の写真カードを見て、写真から想像できることを「わたしのホストファミリー」のワークシートに記入する。
- ⑦ 友だちの持っているカードとワークシートを自由に見合う。
- ⑧ パワーポイント資料で世界の食糧事情について知る。

#### この時限のねらい

- ・世界にはいろいろな食文化があることを知る。
- ・タンザニアの農業(米作り)について知り、よりよくするための方法を考える。
- ・世界の食糧事情を知り、自分たちにできることを考えるきっかけとする。

## 2 子どもの活動の成果・反応

◇「わたしたちの村で、じょうずに米作りをしよう！」のワークでは、【A 協力するためのチームを作る、B お米の育て方を学ぶ学校を作る、C 機械を手に入れる、D「よう水ろ」を作る、E 農薬や肥料の工場を作る、F お米を保管できる倉庫を作る】の中から、ピラミッド型に優先順位を考えた。それぞれ、自分の意見を真剣に伝え合っていたのが印象的だった。

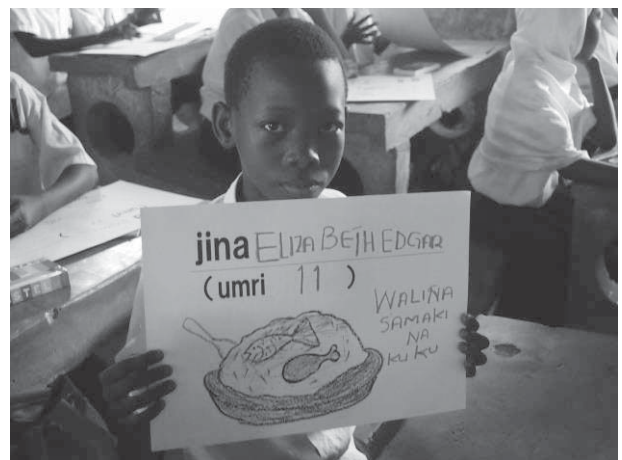
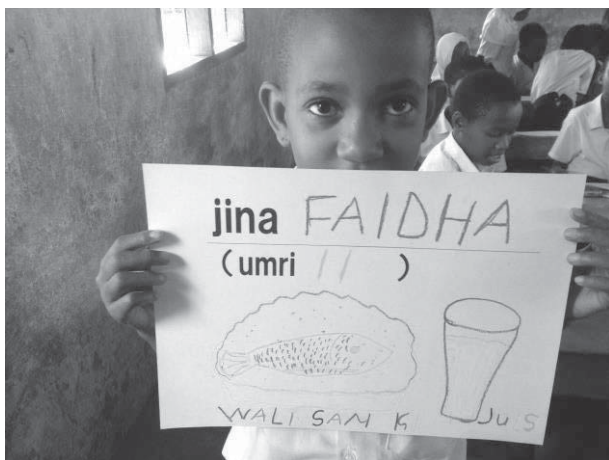
【カードを並べた理由より】

- ・「用水路を作る時は1人じゃできないから、チームを優先した。」
- ・「チームを最初に作れば、後からお米をとったり、植えたりするのが早く終わるから。」
- ・「お米を作る場所を決めないといけないと思ったから、用水路を優先した。」
- ・「倉庫を上にした理由は、汚い所にお米を置くとお米を食べてない人もいて、学校の給食も食べられないから、病気にかかるかもしれないと思ったから。」
- ・「お米の育て方を学ぶ学校を作ると、いつでもお米を作れるから。」
- ・「お米の学校を作れば、大人になっても米作りができるから。」

◇【「地球の食卓」の写真カード、世界の食糧事情のパワーポイントを見た感想より】

- ・「お父さんやお母さんが日本人みたいな顔なので、不思議だな、と思った。」
- ・「木の実とか食べる国もあるんだね。国によって違うんだね。家が笹でできているところもあるなんて初めて知りました。」
- ・「すごく賑やかさうだけど、靴下とかがなくてかわいそうだな。」
- ・「なぜ他の国には食べ物がなかったりするんだらうと思いました。」
- ・「外国より日本のほうが食べ残しが多いことを初めて知りました。」
- ・「日本は、すごくごはんやお菓子があって思っていました、世界には食べ物がいっぱいある人と、あまりない人がいます。」

## 3 使用した教材



写真：「好きな食べものアンケート」



<教材5> 開発教育協会「写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10」2010年（開発教育協会）

<教材6> 池田香代子「世界がもし100人の村だったら3（たべもの編）」2004年（マガジンハウス）

## 6 時限目「電気について考えよう！」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 普段の生活でどのような物に電気を使っているかを考える。
- ② タンザニアの電力事情が分かる映像を見る。
- ③ TANESCO の活動を知る。
- ④ 「もし、電気が通ったら・・・？」のワークに取り組む。
- ⑤ TANESCO で働く人からの、日本の子どもたちへのメッセージを聞く。

#### この時限のねらい

タンザニアの電力事情を知り、考えることを通して、普段何気なく使っているライフラインの大切さに気づく。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇「もし、電気が通ったら・・・？」のワークでは、【A 明かり、B 携帯電話の充電、C エアコン、D 冷蔵庫、E テレビ、F お湯】の中から初めて自分の村に電気が通った時を仮定して、使いたい物の優先順位（ピラミッド型）を考えた。全体的には、明かり・エアコン・冷蔵庫を1番に選ぶ児童が多かった。

【カードを並べた理由より】

- ・「冷蔵庫は、前の日に（食べ物を買っても腐らないし、冷たくできるから。」
- ・「明かりがないと転んじゃったりするし、どこに何があるか分からない。」
- ・「明かりがないと、ろうそくで過ごしてろうそくの煙が通ってくるから。エアコンがないと熱中症になるから。」
- ・「明かりがないとトイレに行くときや寝るときに怖くなっちゃうから。」
- ・「テレビがなかったら好きな番組があるのに見れないから。お湯がなかったら温かい味噌汁とか作れないから。」

◇【児童の感想より】

- ・「日本ではすごく明るいけど、タンザニアには明かりがつかないというのが分かりました。もっと電気を大切にしたいです。」
- ・「宇宙からタンザニアを見ると、少ししか明かりがないので、びっくりだなと思いました。」
- ・「日本は（電気が）通っているけど、タンザニアの電気のことも分かりました。」
- ・「タンザニアの人は携帯電話をいっぱい持っている人がいて、家電話が全然持ってないって、変だなと思いました。」
- ・「電気の使えない人が、電気が使えればいいのに。」
- ・「（TANESCO の人が）タンザニアの国の中で、自分のためだけじゃないことをやって親切だなあと感じました。日本は世界のために働いていてすごいと思いました。」

### 3 使用した教材

<教材7> テレビ東京「ガイアの夜明けー日本の技術で世界を救う！新ベンチャーの底力」2015年9月1日

## 7 時限目「タンザニアの友だちに聞いてみよう！」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの学校の様子、子どもたちの生活の様子をパワーポイント資料で見る。
- ② タンザニアの小学生に聞いてみたいことをワークシートに書く。

※1 月中旬以降、タンザニアの小学校に勤務している青年海外協力隊の方と連絡を取り合い、回答を得る予定。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇タンザニアのそれぞれの学校の校歌を動画で見せたところ、自分たちの校歌とは違うものだったので驚いていたようだった。また、見慣れない校舎や教室の様子に興奮した様子だった。

【児童の感想より】

- ・「タンザニアでは、制服を着ているんだなと思いました。」
- ・「ボールがないから毛糸をくしゃくしゃに丸めて遊ぶことが分かりました。」
- ・「家でお姉ちゃんが小さい子を5人くらい世話していたので、すごいなと思いました。」
- ・「英語ですらすらみんなが言うので、すごいなと思いました。」
- ・「かけ算九九が、 $9 \times 12$ まであるのが分かりました。」
- ・「(調理員さんが)給食を1人で作っているなんてすごいですね。」
- ・「1つの椅子に6人くらいいて、狭そうだなと思いました。」
- ・「タンザニアには、遊具があまりないと知りました。」
- ・「校舎が思ったより大きい。」



写真:「校歌(ムランディジ小学校)」

#### この時限のねらい

- ・タンザニアの自分たちと同年代の子どもたちの暮らしぶりを知り、自分たちとの相違点を考える。
- ・タンザニアと連絡を取り合うことによって、遠い異国の人とつながり合える喜びを感じる。

### 【児童の質問より】

- ・「学校で遊ぶ時は、何をして遊ぶの？」
- ・「鉛筆ってどこで買っているんですか。」
- ・「(学校に)朝来てから掃除をするのはなぜですか？」
- ・「家でウガリを作ってもらっていますか。」
- ・「具合が悪くなったらどうしますか。」
- ・「何が1番大切ですか。」
- ・「宿題はありますか。」
- ・「曇ってるときって、暗いまま授業するの？」
- ・「校歌は、歌うと楽しいですか？」
- ・「学校はいいところだと思いますか。」

## 8 時限目 「しあわせにくらすために、大切なものは？」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 「しあわせにくらすために大切なものは」のワークに取り組む。  
(ダイヤモンドランキング)
- ② 1位に選んだもの、9位に選んだものを1人ずつ発表する。
- ③ もう一度同じ内容でダイヤモンドランキングを作る。
- ④ マボギニ村の夫婦の話聞く。
- ⑤ 「HAPPINESS IS・・・」の紹介を聞く。

### この時限のねらい

「幸せ」を感じることは人それぞれであることに気づく。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇「しあわせにくらすために大切なものは」のワークでは、【お金・学校・健康・水、電気、ガス・食べもの・平和・友だち・家族・しゅみ】の中で優先順位をつけ、ダイヤモンドランキングを作った。どの項目も捨てがたく、最後まで悩む児童が多かった。友だちの発表を聞いて、意見を変えた児童も多かった。全体で見ると、ランキングの上位には「家族」が一番多く、続いて「健康」「平和」が多く書いてあった。下位には「趣味」が多かった。

### 【並べた理由より】

- ・「水や食べ物がないと生きていけない。」
- ・「平和があるとみんなが気持ちよく過ごせるから。」
- ・「世界が平和になればみんな仲良くできるから。」
- ・「家族は、私のことをみんな心配してくれて優しくしてくれるから。」
- ・「家族がいれば平和に暮らせると思った。」
- ・「お金と食べものどちらも大切だけど、お金がなければ食べ物が買えない。」
- ・「どうして趣味が一番下かという、好きなことは後からでもできるから。」
- ・「お金も大切だけど、家族や友だちのそばにいる時が楽しいので変えました。」

### 【児童の感想より】

- ・「今日のお勉強で、人それぞれ幸せってあるんだなー。(としました。)今まで考えたことなかったです。」



- ・「本を見て、幸せって大切なんだと思いました。そして、(自分と)同じこともあって、幸せなんだと思いました。」
- ・「バルタザールさんが、欲しいものは何もないと言ったので、びっくりしました。」
- ・「幸せはたくさんあるんだな、と初めて知りました。」
- ・「タンザニアの人は何で今の暮らしでいいのか、不思議でした。」

### 3 使用した教材

＜教材9＞リサ・スウェーリング ラルフ・レザー「HAPPINESS IS…幸せを感じる500のこと」2015年 文響社

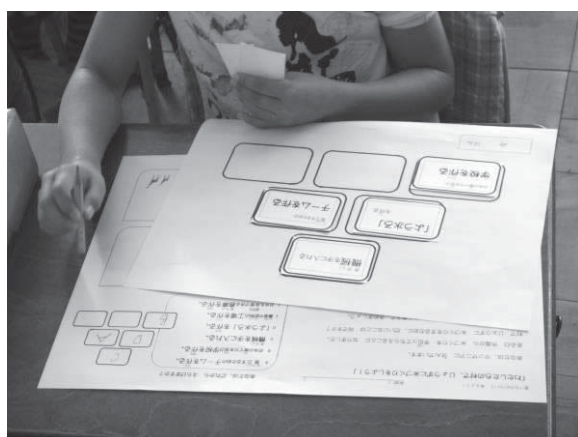
## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

＜写真1＞フォトランゲージ「どれがタンザニアのしゃしんでしょう？」



＜写真2＞「わたしたちの村で、じょうずに米づくりをしよう！」



### 2 参考文献・資料

- 1) 栗田和明・根本利通「タンザニアを知るための60章(第2版)」2015年 明石書店
- 2) 和田信明・中田豊「途上国の人々との話し方—国際協力メタファシリテーションの手法」2010年 みずさわ出版

以上

# 支援と開発～10年後のタンザニアにできること～

<b>実践場所</b>	神奈川県	横浜市立新羽中学校	<b>実践者</b>	新堀 孝太郎
<b>対象</b>	中学1年生	<b>時間数</b>	6時間	
<b>担当教科</b>	社会科	<b>実践教科</b>	社会科	
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカや開発途上国、支援、開発などに対する関心を深める。</li> <li>・アフリカ州に関する地形、地名、歴史、文化の特徴などを学ぶ。</li> <li>・ODAなどの資料を通して、今後の日本の役割を考える。</li> </ul>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>	
	1	<b>【アフリカってどんなところ】</b> 導入でタンザニアのイメージについてグループワークを行う。その後タンザニアの楽器や絵画に触れたり、写真や、映像を通してアフリカへの明るいイメージをもたせる。	・教師海外研修写真・映像  ・アフリカの白地図	
	2	<b>【アフリカの国境はなぜ直線が多いのだろうか】</b> 地図を見て「なぜアフリカの国境線が直線なのか」を歴史的背景も踏まえて考える。		
	3	<b>【チョコレートあげる？あげない？】</b> フジテレビ番組「あいのり：ガーナ編」を通してモノカルチャー経済について学ぶ。映像の中で最後にカカオ農家の子供にチョコレートをあげるかあげないかで悩むシーンで止めて、実際に生徒に考えさせる。	・フジテレビ番組「あいのり：ガーナ編」  ・テレビ東京「世界をひらく僕らの一歩」	
	4	<b>【ODAって何だろう】</b> 資料や番組を通して、「ODAとは何か」を学ぶ。またフィリピンで使われている母子手帳など日本の行っているODAを実際に見てみる。		
	5	<b>【10年後のタンザニアのために】</b> 資料を通して、医療や教育、農業など様々な分野から今後日本が力を入れたほうがよい分野を選ぶ。また、その分野の中で「10年後のタンザニアのために日本が行ったほうがよい支援策」を考える。		
	6	<b>【開発って何だろう】</b> 5校時の授業の発表を行う。その後「自分たちがアフリカにできることは何だろう」を考えて、レポートを書いて単元のまとめとする。		
<b>成果</b>	アフリカに対するイメージや知識はほとんど無かったが、タンザニアの映像や写真絵画などを通して、明るいイメージをもつことができた。また、3、5時間目の授業を通して、自分たちでアフリカのことを考えたことで、開発途上国の現状に関心をもち、「何かできることを」探す生徒もいた。			
<b>課題</b>	作成した、資料の文字数を減らし、どの生徒でも資料から根拠を得て結論を出すことができると良かった。また、生徒が持った関心を何らかの活動につなげていきたい。			
<b>備考</b>	校内人権講演会でJICAの方に来ていただき、ブータンについての講演を聞くことができた。また、他学年でも映画「風に立つライオン」を通してアフリカについて学ぶことができた。			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「アフリカのイメージは??？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカのイメージを考える・グループでアフリカのイメージを考え、グループで共有する。
- ② アフリカに触れる・教師海外研修で撮った写真や動画、「ティンガ・ティンガ」、楽器などを見せて、触らせる。
- ③ アフリカのイメージを考える2・①で考えたイメージを②の資料を見て、どう変化するかグループで考え、発表する。

#### この時限のねらい

アフリカに対してのイメージを生徒に発言させ、どのようなイメージを発表させる。その後、タンザニア研修で撮った写真や動画、購入した絵画などを見せ、イメージを一新させる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

感想

◇「ティンガ・ティンガなど明るい絵や明るい服を着ている人が多くて明るいイメージがついた」、「笑顔の人が多かった」、「動物を見てみたいと思った」などアフリカに対して新しいイメージを持たせることができた。

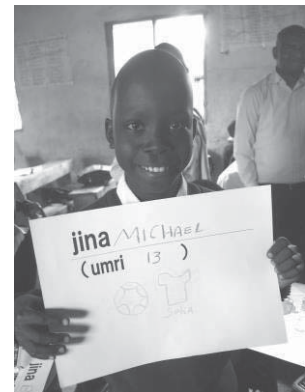
#### 3 使用した教材



<教材1>教師海外研修写真



<教材2>教師海外研修ムービー



<教材3>ワークシート

アフリカについて知ろう  
1年 国 語 巻頭

1:知っているアフリカの国を書いてみよう。

2:アフリカのイメージは??

3:アフリカのいいところを考えよう。



## 2

### 時限目「アフリカの国境線はなぜ直線なの？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカの国を書いてみよう・知っているアフリカの国名を書く。
- ② アフリカの地域分け・白地図のワークシートを配布し、東アフリカ、西アフリカなどのように
- ③ なぜアフリカの国境線が直線なのか考えてみよう・アフリカの地図を見て、国境線が直線の理由を考える。

#### この時限のねらい

アフリカの地理的な特徴や国名、地域名を理解する。また、なぜ国境線が緯線や経線に沿って定められたことを考えながら、歴史的背景を学ぶ。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇「まっすぐの川が多い」「緯線や経線に関係があるのか」など多くの予想を考えることができた。「植民地」という言葉を出すと小学校の学習から欧米の列強が国境線を考えたことを導き出すことができた。

#### 3 使用した教材

<教材4>ワークシート2(白地図)

### 3 時限目「チョコレートあげる？あげない？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①モノカルチャー経済について学ぶ・資料集を通してモノカルチャー経済について学ぶ。
- ②DVDを見る・あいのりガーナ編(カカオ農家の様子を写し、その後集団で農家の子供にチョコレートをあげるか、あげないかを相談している映像)を見せる。
- ③「チョコレートあげる？あげない？」・実際にそのグループの一員になったとして「チョコレートあげるかあげないか」をグループで考える。
- ④発表・グループで話し合ったことを発表し、「支援やモノをあげることについて」考える。

#### この時限のねらい

モノカルチャー経済、チョコレートについて学ぶ。また、支援は物をあげるなどの一方的なものだけではいけないということを考え、気付かせる。他のグループの発表を聞きながら自分の意見を深める。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

感想

- ◇「真剣にチョコレートあげるかあげないかを考えることができた。
- ◇今まで、チョコを何気なく食べていたけど、アフリカの人々の様々な思いがあったのを知れた。アフリカに貧しい国があるのは知っていたけれど、日本を含む先進国にも責任があると聞いてショックを受けた。
- ◇今回の話し合いはとても難しく大変だったけどしっかり考えて色々な人の意見が聞けて良かった。ボールをあげたほうがよいという意見もあったけど、TVのメンバーもたくさん悩んだと思う。お礼として渡したことがとてもよかったと思った。

#### 3 使用した教材

<教材5> フジテレビ番組「あいのり」(#400:ひとかけらのチョコレート)

<教材6> ワークシート

あなたはチョコレートあげる？あげない？

1年 級 番 名 姓

チョコレートを...

あげる or あげない

理由

## 4 時限目「ODAって何だろう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① ODAって何だろう・ODAとは何かを資料集を参考にして考える。その後説明する。
- ② 実際のODAを見てみよう・フィリピンの母子手帳やアフリカの話映像を見る。
- ③ 「ODAって何のためにしているの？」・グループで日本はなぜODAをおこなっているかを考える。

### 2 子どもの活動の成果・反応

感想

- ◇日本のODAが世界中で役立っていることを知った。
- ◇日本の母子手帳があんなに世界中で使われていることに驚いた。
- ◇

### 3 使用した教材

<教材7>テレビ東京「世界をひらく僕らの一歩」

<教材8>ワークシート

#### この時限のねらい

世界の課題に対して日本がODAという活動を行っているかを学ぶ。また、なぜODAを行っているのかを考える。

ODAって何だろう

1: ODAとは  
「Official Development Assistance (政府開発援助)」の略称です。主に貧しい国に対して保健や教育などの分野に必要な資金を渡す「無償資金協力」と、途上国が自立できるよう日本の技術を伝える「技術協力」のほか、将来、開発途上国が返済することを前提とした「有償資金協力 (円借款)」があります。近年では政府だけではなく、民間企業やNGO、地方公共団体、大学などにも国際協力は広がり、様々な形で事業が進んでいます。

開発協力の種類

```
graph LR
    A[開発協力] --> B[公的資金]
    A --> C[民間資金]
    B --> D[政府開発援助 Official Development Assistance (ODA)]
    B --> E[その他公的資金の流れ]
    D --> F[無償資金協力]
    D --> G[有償資金協力 (円借款)]
    C --> H[非営利団体による関与]
```

2: 何のためにODAをするのか??

予想:

まとめ



## 5 時限目「10年後のタンザニアのために」

### 1 子どもの活動の流れ

- ①医療や教育、農業など様々な分野から日本が力を入れたほうがよい分野を1つ選び、話し合う。(個人、グループ)
- ②選んだ分野の中で「10年後のタンザニアのためにどのようなことを行うか」をグループで考える

### 2 子どもの活動の成果・反応

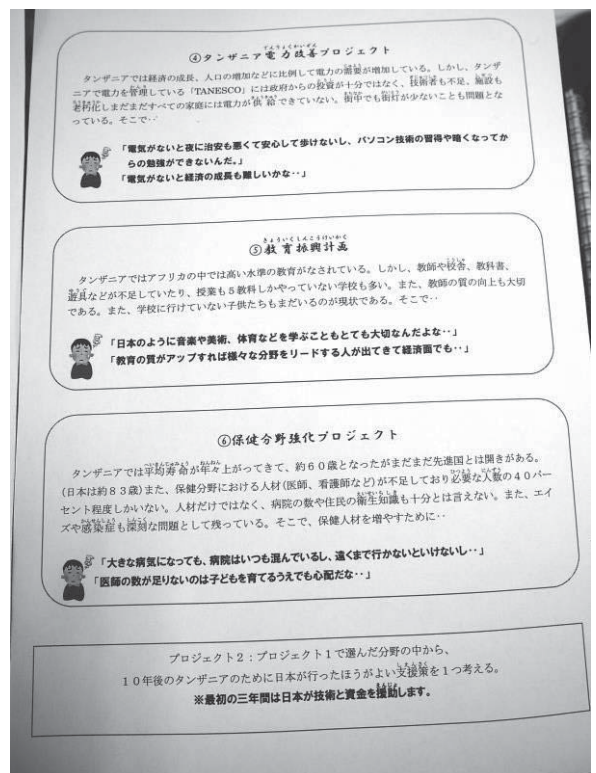
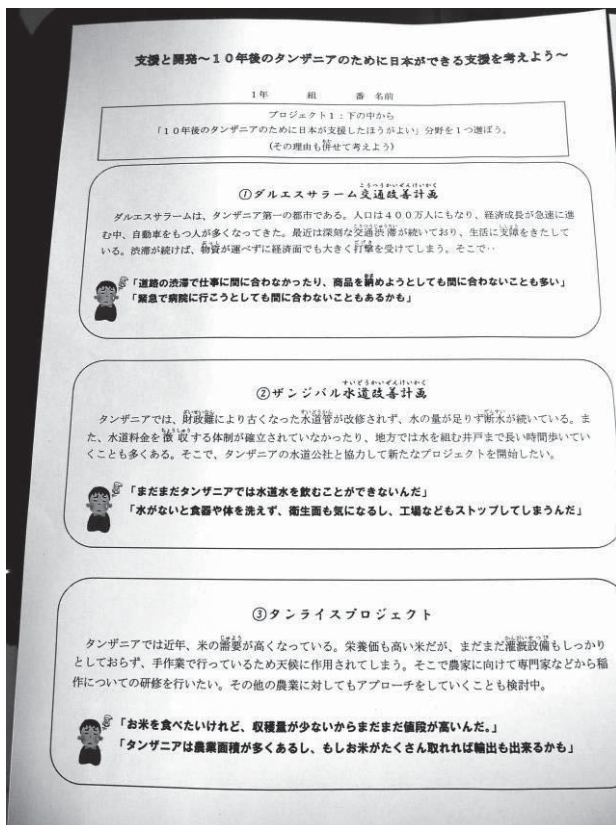
- ◇今までは途上国について考える機会は少なかったけど、こういう授業を通して考えるきっかけになったのがよかった。これからは他の国のことも考えていきたい。
- ◇今回10年後のタンザニアを勉強したことで、日本が行うODAについても、興味を持った。
- ◇この活動を通して、タンザニアの経済のことや平和のことをしっかりと考えられて、これからの世界が安定していったほしいと思った。

### この時限のねらい

タンザニアの基本情報や既修内容を参考にして10年後のタンザニアのために日本ができることを考える。生徒の自由な発想を出させるためにあえて支援策は選択にはさせない。

### 3 使用した教材

- <教材9> 外務省タンザニア情報、国別援助方針のまとめ
- <教材10> ワークシート



## 6 時限目「開発って何だろう」

### 1 子どもの活動の流れ

- ①発表・5時限目で行ったワークの発表を行う。
- ②私たちにできること・「自分たちにできることは何だろう」という題でダイヤモンドグラフをつくる。
- ③ レポートを書こう・10年後のアフリカはどのようなになっているか。

#### この時限のねらい

これまでの学習のまとめや、他のグループの意見を聞いて、今後のアフリカはどうなるかをレポートにまとめる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇こんなにたくさん考えることを行ったのが大変だったけど楽しかった。
- ◇アフリカというなじみがないところのことをよく考えることができた。

### 3 使用した教材

<教材10>ワークシート

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

<写真1~3>グループワークの様子です。





## 2 参考文献・資料

- 1) 外務省国別援助方針
- 2) ODA の現場で考えたこと—日本外交の現在と未来 (NHK ブックス)
- 3) ODA白書



# We are all in one world～私たちと世界～

<b>実践場所</b>	神奈川県	鎌倉市立御成中学校	<b>実践者</b>	赤穂 沙織
<b>対象</b>	中学二年生(4クラス-各約30名)		<b>時間数</b>	11時間
<b>担当教科</b>	英語・特活・総合・道徳		<b>実践教科</b>	英語・道徳
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の国のことを知ることで、自分自身や住んでいる国、振り返るきっかけとする。</li> <li>・世界と自分との繋がりに気づき、自分たちから発信する力をつける。</li> </ul>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1 (英)	タンザニアの子どもに向けた鎌倉の紹介カードをつくる。		* 渡航前
	2 (英)	タンザニアに関する三択クイズを行う。		* 渡航後
	3 (道)	タンザニアの現状を知る。 (農業・教育・ものづくりの観点から)		
	4 (道)	タンザニアで活躍する日本人を知る。 もしタンザニアに派遣されたときに自分たちができるプロジェクトを考える		
	5 (道)	豊かさとは何かを考える。 (価値観のランキング・タンザニアでの結果の提示)		
	6～10 (英)	留学生に対する鎌倉案内の準備をする。		
11 (英)	自分たちの鎌倉ツアーと、それぞれの観光地の説明		* 今年度末実施予定	
<b>成果</b>	1年次に「世界がもし100人の村だったら」を道徳の時間で実践した時には「自分は豊かな国に生まれて良かった」等の感想が多かったが、今回の実践を通して、「自分の国は果たして豊かなのか？途上国は貧しくてかわいそうなのか？」という疑問を残すことができたと思う。			
<b>課題</b>	日常生活とのつながりをもたせ、自分自身を振り返るきっかけをつくる、という点はまだ課題が残る。伝えたいことが多く、詰め込みすぎて内容が薄まってしまった授業もあったため、1時間の授業構成はこれからも考えていきたい。今後も実践を続けていきたい。			
<b>備考</b>				

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「鎌倉紹介カード作り(英語)」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 「タンザニア」というアフリカの国の子どもに向けて鎌倉の紹介をする
- ② 日本のことをあまり知らないことを想定して、何を紹介するかグループで考える。
- ③ 実際の鎌倉のパフレットを見ながらオリジナルの鎌倉紹介カードを作る。

#### この時限のねらい

- ・今まで習った単語、表現を使って自分の街を紹介する。
- ・「日本があまり知られていない国」の人を想像して、どのようなことに興味を持つか想像する。

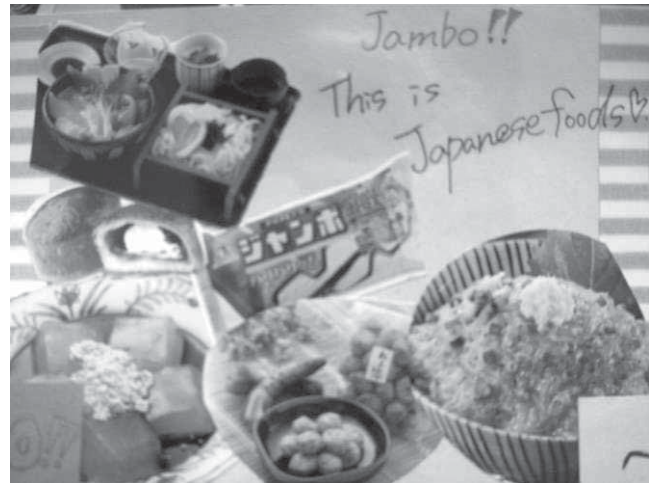
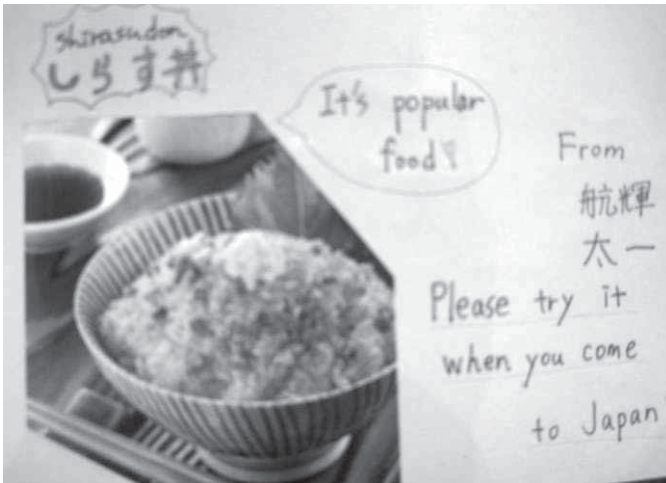
#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇あいさつは「Jambo!」だよ、という英語だけでなく「スワヒリ語で～は何というの?」と聞いてくる生徒もいた。

◇スワヒリ語を調べて、自分で文を作ってくる生徒もいた。

#### 3 使用した教材

<教材1>生徒の作った作品例



<教材2>実際に渡した様子(クラスの掲示物として)



## 1 子どもの活動の流れ

- ① 自分たちが書いた鎌倉紹介カードがタンザニアの子どもに届いたことを知る。
- ② 教師の英語でのタンザニアの説明の所々にあるクイズに写真を見ながら答える。
- ③ 1だと思う人は教科書、2だと思う人はノート、3だと思う人はファイルを上にあげる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇写真を見て、女の子の髪の毛が全員短いことなどに驚いていた。
- ◇英語が苦手な生徒も写真を見ながら自分の考えで答えることができていた。

## 3 使用した教材

<教材1>クイズの例

Famous mountain in Tanzania is.....

- ①Mt. Kilimanjaro
- ②Mt. Everest
- ③The Himalayas

When they take photos, they say.....

- ①キムチ
- ②チーズ
- ③バナナ



They are

- ①in Judo club
- ②at police school
- ③Olympic champions

## この時限のねらい

- ・タンザニアについて想像しながら、英語を通して学ぶ。
- ・今まで習った文法事項で質問の意味を理解する。



### 3 時限目「タンザニアの現状を知る」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアの動画を見て、都市や農村部でどのような生活がされているかを知る。
- ② パワーポイントでタンザニアの教育、農業、ものづくりでの分野の現状を知る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇空港から市街への道のりの動画に対しては、思ったより都会だ  
という感想が多かった。

◇日本のない世界地図をみて驚いた様子だった。

#### 3 使用した教材

<教材1 使用したパワーポイントの例>



#### この時限のねらい

- ・「アフリカ＝動物、自然」という今までのイメージと、実際のタンザニアの都市部の映像を見て、イメージとの違いに気づく。
- ・それぞれの分野からのタンザニアの現状を知る。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 海外で活躍する方の写真を見て、何の仕事をしている方かを考える
- ② 実際にその方々からの仕事の説明文を聞く。前時で学んだ、教育、農業、ものづくりの分野で活躍する方々だということを知る。
- ③ 架空の招請状の内容を聞き、自分たちが実際にタンザニアに行ったとして、プロジェクトを立ち上げる。
- ④ 班で発表する。
- ⑤ タンザニアで活躍する方々からのメッセージを読む。

### この時限のねらい

- ・海外で活躍する日本人を知り、職業を選択する上での幅を広げる。
- ・様々な人の生き方に触れ、自分の良さを活かした生き方を考えるきっかけをつくる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

～生徒の感想より～

◇自分たちにも途上国の子たちのために出来ることがあるんだと思い、少し感動しながら考えました。本当にこれが実現できるかどうかは別として、自分なりに納得のいくプロジェクトが出来たのでとても満足しています。「今自分にできることを考える」ということは普段の生活でも重要だと思うので、実践したいです。

## 3 使用した教材

<教材1 招請状「タンザニアサポートプロジェクト」>

御成中学校の皆さんへ

### 【緊急】「タンザニアサポートプロジェクト」ご協力をお願い

みなさん、こんにちは。

今回、皆さんがタンザニアについての授業を受けるということで、お願いがあってお手紙を書きました。

実は、タンザニアでは先日選挙があり、新たな政権が中心となって、国民がよりよい生活を送れるように様々な取り組みを行っています。そこで、日本の中学生の皆さんの力をお借りしたいのです。

教育、農業、ものづくりの3つの分野のうちどんな形でもかまいません。実際にこちら、タンザニアに来ていただき、皆さんの力とアイデアで、タンザニアの人たちがよりよい生活を送れるようなサポートをしていただきたいのです。

ただし、いくつか条件があります。

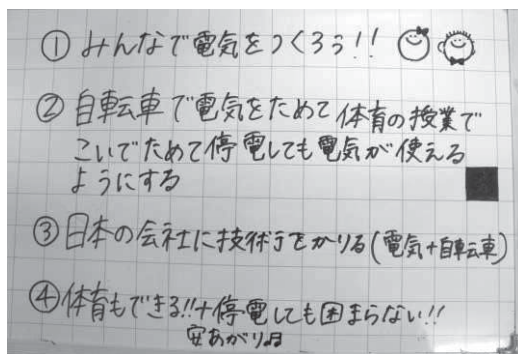
(条件)

- ・派遣期間→2015年11月23日(火)～2015年12月31日(木) (派遣期間中にすべてを終わらせる必要はない。技術を残しておくことでもOK。)
- ・派遣される全員がプロジェクトに携わる事。(一人一人の能力、良さを最大限に生かしたものであること。)
- ・資金と技術のサポートはJICAタンザニアが責任を持つ。(自分たちだけでできるものでも良いし、大人に手伝ってもらうものでも良い)

班でそれぞれ可能なプロジェクトを検討していただき、いくつかプロジェクトを提案してもらいたいと思います。

それでは、みなさんにタンザニアでお会いできることを楽しみにしています。

<教材2 生徒のプロジェクト案>①プロジェクト名 ②内容 ③方法 ④効果



## 5 時限目「豊かに暮らすために」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 自分が一番幸せだと感じる瞬間ベスト3を書く。
- ② 豊かに暮らすために必要なものをランキングする。
  - A 家族、友達
  - B 教育
  - C お金
  - D 趣味
  - E 仕事
  - F 食べもの
  - G 健康
  - H 水、電気、ガス
  - I 電子機器(テレビ、携帯電話など)
- ③ クラスで結果を共有する。意見を言う。
- ④ タンザニアでの結果を聞く。
- ⑤ 豊かさとは何か、自分の考えを書く。

### この時限のねらい

- ・一人ひとり価値観が異なり、豊かだ、幸せだと感じることも人それぞれ違うことを知る。
- ・必ずしも「モノ」で豊かさは図れないことに気づく。

### 2 子どもの活動の成果・反応

～生徒の感想より～

- ◇人それぞれの価値観があって、同じ日本人なのに、同じ県、鎌倉に住んで、学校も学年もクラスも同じなのに、「豊か」と感じることは違うんだなと思った。
- ◇お金とか食べ物とかが豊富なことが豊かな暮らしだというイメージがあったけど、周りに人がいなかったり健康じゃなかったりすると、それは豊かな生活とはいえないというイメージが変わった。



### 3 使用した教材

#### <教材 1 ワークシート>

【2】 豊かにくらすためにあなたが必要だと思う項目を下の A～I より選びましょう。  
(番号は重視する順番です。)

1 を選んだ理由を書こう

.....

.....

.....

5 を選んだ理由を書こう

.....

.....

.....

A 家族、友達	B 教育	C お金	D 趣味	E 仕事
F 食べもの	G 健康	H 水、電気、ガス	I 電子機器 (テレビ、 携帯電話など)	

## 6～10 時限目「私の街を紹介しよう」(今年度末実施予定)

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 学年末に留学生を招いて鎌倉の紹介を行うことを知る。
- ② 班で鎌倉の1日ツアーを考え、プレゼンテーションを行うことを知る。
- ③ 実際の旅行のパンフレットを見て、班オリジナルの広告を作り、それについて発表することを知る。
- ④ 班で鎌倉のツアーを考える。
- ⑤ 鎌倉のガイドマップ等を切り取り、オリジナルの広告を作る。
- ⑥ 発表の原稿を考える。

#### この時限のねらい

- ・自分の町を知り、それを伝える力を培う。
- ・来年度の京都への修学旅行につなげることも考え、広告を作り、プレゼンテーションできるようにする。

## 11 時限目「私の街を紹介しよう②」(今年度末実施予定)

### 1 子どもの活動の流れ

- ① クラスごとに留学生を招き、その方の出身国についてのプレゼンテーションを聞く。
- ② 班で用意した鎌倉ツアーのプレゼンテーションを英語で行う。
- ③ 留学生から講評をいただく。

これらを2時間構成で、2時間目は別の留学生を招いて同じことを行う。

### この時限のねらい

- ・2年間学んできた英語を使い、自分の言葉で発表をする。
- ・職場体験発表会での経験を活かし、プレゼンテーションの力を伸ばす。

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

<写真1>タンザニアの現状を説明している様子



<写真2>発表の様子



### 2 参考文献・資料

- 1) 『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第4版』(開発教育協会発行)
- 2) 『開発教育ハンドブック 参加型学習で世界を感じる 改訂版』(開発教育協会発行)

# タンザニアを体験－文化の違いっておもしろい！

実践場所	神奈川県	横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校	実践者	大貫 謙一
対象	中学3年生		時間数	11時間
担当教科	英語		実践教科	道徳・英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ文化を肌で感じることを出発点として、世界各地の文化への関心を高める。</li> <li>・日本の文化を見直し、世界に日本の文化を発信する意欲と態度を養う。</li> </ul>			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【タンザニアの現状を知ろう！】(道徳) 現地の映像や話からタンザニアの様子を知る。		使用教材等 ・タンザニアで撮影した写真 ・タンザニアで購入した絵画やカンガ
	2～4	【アフリカ文化体験】(道徳) ①食事体験: タンザニアの主食(ウガリ)を調理して、手で食べてみる。  ②音楽体験: アフリカの楽器を演奏してみる。		・ウガリの調理手順を撮影した動画等  ・横浜国立大学よりお借りしたアフリカの楽器等
	5～7	【世界の各地の文化に目を向けよう！】(英語) 発展途上国など、これまであまり目を向けることのなかった国を選んでその文化を調べてまとめ、英語のポスターを作成する。		・タンザニアで購入したカンガ等
	8	【世界から見た日本】(道徳) 帰国子女の生徒たちが日本に戻ってきたときに感じた違和感や戸惑いについての話を聞いて、日本の文化について考える。		・帰国子女の生徒たちへのインタビュー
	9～11	【日本の文化を紹介しよう！】(英語・道徳) 海外から来る人に向けた、日本文化の紹介や、日本で生活するためのアドバイスをまとめた英語のポスターを作成する。		
成果	アフリカの文化について体験を通して知ること、海外の文化に対してさらに関心を高めることにつながることができた。日本の文化や習慣について客観的に見直すことで、日本の文化や習慣についての再発見があり、それを世界に理解してもらおうとする気持ちにつながることができた。			
課題	海外の文化に対して高まった関心を、今後どのような形で維持し、さらに高めていくかをしっかり考え、継続的に取り組んでいく必要がある。生徒たちにとって身近に感じられる新鮮な情報を手に入れ、提供し続けることに難しさを感じている。			
備考	プログラムを進めるにあたり、音楽科や家庭科の教員をはじめ学年の先生方全員に協力をいただいた。学年の生徒と教員全体で一連の活動に取り組み、その中で感じたことや考えたことが、生徒の心に残り、世界への関心がさらに高まることを期待したい。			



## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「タンザニアの現状を知ろう！」(3 クラス合同)

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアで撮影した写真のスライドショーを見ながら現地の様子についての話を聞く。
- ② ティンガティンガとカンガを見る。
- ③ 印象に残ったことや、気付いたこと、もっと知りたいことをワークシートにまとめる。

#### この時限のねらい

タンザニアの様子について、現地の映像を見ながら話を聞くことで、タンザニアという国とその文化に対する関心を高める。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇これまでほとんど知らなかったタンザニアの様子について見聞きし、タンザニアやその他のアフリカ諸国に対する関心を高めることができ、海外の国々の文化について知ろうという意欲を高めることができた。

◇現地で実際に写真を撮影した授業者でも気付かなかったような発見をする生徒の姿が見られた。

#### ワークシートの記述より

##### 印象に残ったこと

- ・都市の建物がドイツの建物と似ていてきれいだった。都市部が思っていた以上に発展していたこと。
- ・電気のない環境で学校の授業を受けていること。教室が古く、倉庫のようだった。水道の設備が整っていない。
- ・子供たちが校歌を歌う姿。みんな真剣かつ楽しそうに歌っていた。校歌を歌うときに伴奏がない。
- ・生きる上で大切なことを「教育」だと言っていたところ。前向きに学習に取り組む様子が印象に残った。

##### 気付いたこと

- ・発展途上国の人は、表情が乏しいイメージがあったけれど、とても表情豊かで一人ひとりが幸せそうだった。
- ・まだ、国全体で開発が進んでいないということ。街の様子からはそこまでひどく貧しいようには感じなかった。
- ・物質的な援助ではなく、青年海外協力隊のように技術的な援助も多くされている。

##### もっと知りたいこと

- ・タンザニアの人々の一日の暮らしについてもっと知りたい。どんな言語を使っているか。話をしているところが見たい。
- ・タンザニアの人は、日本(人)のことをどのように見ているのか知りたい。
- ・現地に住んでいる人々はタンザニアという国をどう思っているのか気になった。
- ・どのようにして独立したのか。どういった歴史を経て今に至ったのか。
- ・日本からの支援について、具体的な取り組みを知りたい。何があれば発展していけるのか。

#### 3 使用した教材

<教材1>タンザニアで撮影した写真

<教材2>タンザニアで購入した絵画(ティンガティンガ)と布(カンガ)

<教材3>自作ワークシート

## 2-4 時限目「アフリカ文化体験 ①食事体験」（3クラス同時展開）

### 1 子どもの活動の流れ

- ① ウガリを調理する手順を録画した動画を見て、ウガリの調理法を知る。
- ② 実際にウガリと付け合せを調理して、手を使って食べる。
- ③ ウガリを調理し、手で食べてみた感想やアフリカ食文化について感じたことをワークシートにまとめる。

#### この時限のねらい

タンザニアの人々の主食であるウガリを実際に調理し、現地の人々と同じように手で食べる体験をすることで、タンザニアの文化や習慣に対する関心を高める。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇生きていく上では毎日欠かすことのできない、食事の違いを体験する機会となった。ウガリの味や熱いものを手で食べることに対する感じ方は生徒によってとても大きな違いが出た。

◇今回、日本で入手したとうもろこしの粉はタンザニアの人々が使用しているものと比べ、やや茶色がかっており、食べてみるとやや苦味があった。現地のものとの違いを説明したものの、現地で食べるウガリのほのかな甘みを生徒が体験することができなかつたのが残念である。



ウガリを調理しています



出来上がったウガリと付け合せ

#### ワークシートの記述より

- ・手で食べるということに抵抗はあまりなかったが、右手で食べるということで、利き手と逆の手で食べることに抵抗がありました。
- ・やはり日本で食べるこれらの料理と現地で食べるものは違うので、料理目的かはわからないがアフリカに行ってみたいです！
- ・なぜ、はしやスプーンなどの文化が広まらなかったのか、今も広まっていないのかなど興味を持った。
- ・手で食べてみると、その食べ物がどういう感触なのかがわかって、味だけでは楽しさを味わえると思った



ウガリを食べてみます

### 3 使用した教材

<教材1>ウガリの調理手順を撮影した動画

<教材2>とうもろこしの粉、付け合せの材料(ツナ、ほうれん草、トマトソース)等

## 2-4 時限目「アフリカ文化体験 ②音楽体験」(3クラス同時展開)

### 1 子どもの活動の流れ

- ① アフリカの楽器についての説明を聞く。
- ② 実際にアフリカの楽器を演奏してみる。
- ③ アフリカの音楽に合わせて体を動かしてみる。
- ④ アフリカの音楽・文化と日本の音楽・文化について感じたことをワークシートにまとめる。

#### この時限のねらい

アフリカの楽器を演奏し、アフリカの音楽に合わせて体を動かすことで、アフリカの文化や習慣に対する関心を高める。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇これまでほとんど知ることのなかったアフリカの音楽を聴き、実際に楽器を演奏し、音楽に合わせて体を動かしてみることで、普段、日本で聞きなれている音楽との違いを、身をもって体験することができた。

◇これまで知らなかった海外の音楽に対する興味が沸くと共に、日本の音楽についてもその特徴に目を向ける機会となった。



アフリカの楽器



楽器を叩いてみます

#### ワークシートの記述より

- ・タンザニアはあまり良いイメージはなかったけど、日本よりも良い部分もあって考え直すようになりました。
- ・アフリカは想像していたより面白そうな所だと思いました。
- ・音階がアフリカと日本とでは違うところなどから、日本には日本ならではの日本らしい音楽があるのだと分かった。



楽器演奏に合わせて踊ります

### 3 使用した教材

<教材1>アフリカの楽器

<教材2>音楽科教諭作成のワークシート



### 1 子どもの活動の流れ

- ① カンガを手にして、使い方を想像する。
- ② カンガのまとい方を考えて試してみる。
- ③ 実際のカンガの使われ方を知り、いくつかを試してみる。
- ④ カンガを着てみて感じたことをワークシートにまとめる。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇自分たちが想像した以上に様々な方法でカンガが使用されていることを知って、その工夫に驚きを感じ、それを実際に試してみようとする姿が多く見られた。
- ◇一枚の布を様々な使用法や絵柄など、日本とは違った文化に触れ、他国の文化に対する関心を高めることができた。

#### この時限のねらい

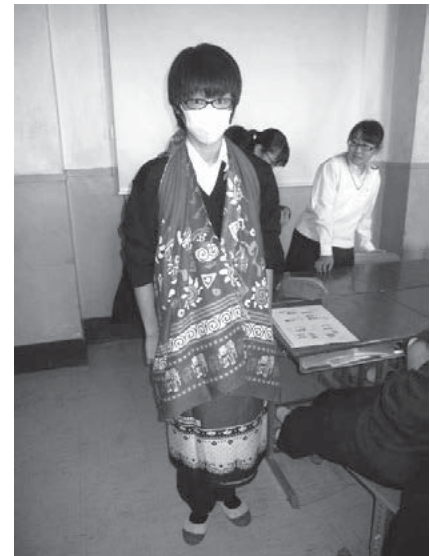
タンザニアで衣服の一部として使用されるカンガと呼ばれる布を実際に身にまどってみることで、アフリカの文化や習慣に対する関心を高める。



カンガをまもっています

#### ワークシートの記述より

- ・様々な巻き方があり、首に巻いたり頭に乘せたりする布の使い方の工夫がおもしろかった。
- ・文化というものが感じられ、おもしろいと思った。
- ・いろいろな模様や色で、とてもおしゃれだなと思いました。



カンガをまもってみました



頭に乘せて運んでみます

### 3 使用した教材

- <教材1>タンザニアで購入したカンガ
- <教材2>カンガの着方を紹介した自作プリント
- <教材3>カンガの使われ方を紹介した動画
- <教材4>自作ワークシート

# 5-7 時限目「世界各地の文化に目を向けよう！」(クラス別)

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 発展途上国を中心とした、これまであまり目を向けることのなかった国や地域を各自で選び、その文化についての情報を得る。
- ② 得た情報を紹介するためのポスター(A4サイズ1枚)を各自で製作する。

## 2 子どもの活動の成果・反応

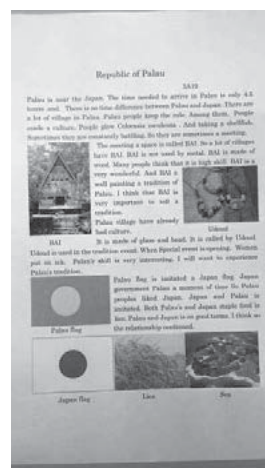
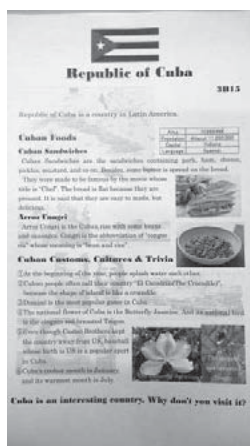
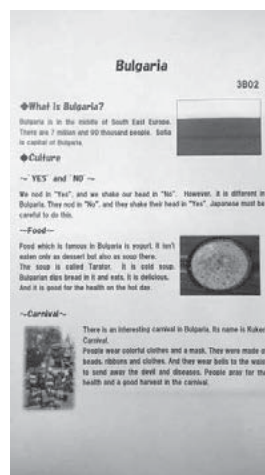
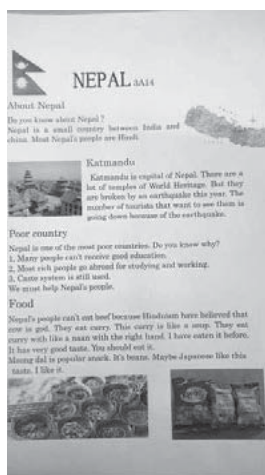
◇タンザニアの様子を知り、その文化を体験したことで、海外の文化に対する興味・関心が高まっており、生徒たちが今まであまり目を向けることがなかった様々な国や地域について、積極的に情報を集め、それを整理しようとする姿につながった。

◇体験を通して文化に触れた後だけに、情報源をインターネット情報に多く頼らざるを得ない状況に物足りなさを感じる生徒の姿があった。

### この時限のねらい

発展途上国を中心としたタンザニア以外の国・地域の文化を自分自身で調べてまとめることで、タンザニアの文化に触れたことで広がった海外の文化に対する関心をさらに高める。

### 生徒が作成したポスターの例



## 3 使用した教材

<教材1> 生徒一人に対して一台ずつのタブレットPC

## 8

### 時限目「世界から見た日本」（3 クラス合同）

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① インタビューによって帰国子女の生徒たちが日本に戻ってきたときに感じた違和感や戸惑いについての話を聞く。
- ② 授業者による、日本の文化や習慣に対する海外の人々の捉え方についてのプレゼンテーションを聞く。
- ③ 日本の文化や習慣、考え方について見直し、その特徴について気付いたことをワークシートにまとめる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇普段、気にも留めずに行っていることが、海外の人々からは特異なものとして見られたり、理解しがたいものとして捉えられたりすることがあることを知り、あらためて自分たちの生活における文化や習慣、考え方を見直す機会となった。

◇日常生活の中で、あたりまえのこととして何気なく行っていることでも、あらためて見直してみると自分たちでもうまく説明することができないことがあることを認識した。

#### 3 使用した教材

<教材1>帰国生徒へのインタビューシート

<教材2>日本の文化や習慣についての海外の人々の捉え方についての情報

<教材3>独自ワークシート

#### この時限のねらい

帰国子女の生徒たちが日本に戻ってきたときに感じた違和感や戸惑いについての話や、日本の文化や習慣に対する海外の人々の捉え方についての情報をもとに、日本の文化や習慣、考え方をあらためて見直す。

## 9-11

### 時限目「日本文化を紹介しよう！」（クラス別）

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 3～4人グループで日本の文化や習慣、考え方について話し合う。
- ② 海外の人々に伝えたい日本文化や、日本で生活するためのアドバイスについてグループ内で分担を決め、生徒一人ひとりが英語で原稿を書く。
- ③ それぞれの原稿をまとめて、グループで1枚ずつ英文のポスターを製作する。
- ④ グループで製作したポスターの内容についてクラス内で発表を行う。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇日本文化や習慣、考え方について客観的に捉え直して、理解する機会となった。

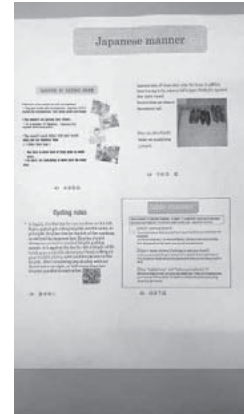
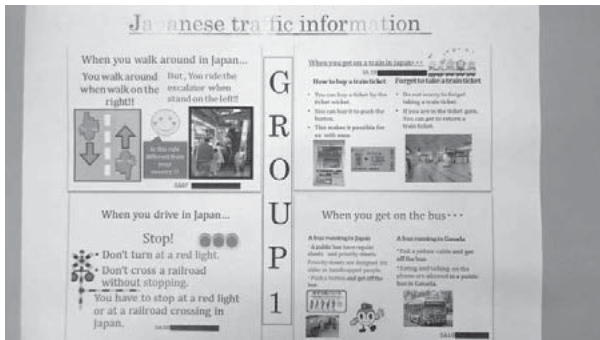
#### この時限のねらい

海外から日本に来る人に向けた、日本文化の紹介や、日本で生活するためのアドバイスをまとめたポスターを製作する過程で、日本の文化や習慣、考え方についての理解を深めると共に、それを海外に発信する意欲と態度を養う。



◇海外から日本に来る人に向けた日本で生活するためのアドバイスをポスターにまとめる作業と、その発表を通して、相手の立場に立って考え、日本の文化や習慣、考え方を理解してもらおうという意欲と態度を養うことができた。

### 生徒が作成したポスターの例



## 3 使用した教材

<教材1> 生徒一人に対して一台ずつのタブレットPC

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

<写真1> 自分たちが調理したウガリを食べる生徒たち



<写真2> ティンガティンガ①



＜写真3＞ティンガティンガ②



＜写真4＞カンガとマサイの布



## 2 参考文献・資料

- 1) 白鳥くるみ『アフリカ料理の本:62の有名なアフリカンレシピ&物語』 2014 アフリカ理解プロジェクト.
- 2) ジャネット・ハンビー, デビッド・バイゴット(カンガ愛好研究会訳・編)『カンガ・マジック 101 一枚の布で楽しむ東アフリカ・シンプルライフ KANGAS 101 日本版』 1995 ポレポレオフィス.
- 3) 栗田和明・根本利通『タンザニアを知るための60章【第2版】(エリア・シリーズ 58)』 2015 明石書店.

以上

# 生徒海外研修 in Tanzania!

<b>実践場所</b>	神奈川県	横浜清陵総合高等学校	<b>実践者</b>	黄金井貴徳
<b>対象</b>	高校1年生		<b>時間数</b>	8時間(文法事項解釈を除く)
<b>担当教科</b>	外国語(英語)		<b>実践教科</b>	コミュニケーション英語Ⅰ
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアという国に実際に生徒達がグループで行ったという仮定の体験をもとに、タンザニアという国についての知識を深め、異なる国の価値観を学ぶ。</li> <li>・授業を通して開発や支援について思考する力を身につけさせ、その課題についても考察する。</li> <li>・海外に行ってみたいという関心を持たせる。</li> </ul>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1	<b>出発前事前研修①【タンザニアはどんな国だろう?】</b> 「グループでのアイスブレイク、アクティビティ【タンザニアはどんな国だろう?】」		「What Makes You Beautiful」(One Direction)
	2	<b>出発前事前研修②【タンザニアはこんな国でした! ?】</b> 「フォトランゲージを使って」		「タンザニアで撮影した写真のフォトランゲージ、教師海外研修のビデオ」
	3-4	<b>出発前事前研修③【タンザニアを知ろう!】</b> 「タンザニアという国についてのブリーフィング、教師海外研修の英文記事」		「JICAタンザニア事務所英文広報記事」
	5-6	<b>海外研修①【What Makes You Happy?】</b> 「キリンギ中の生徒達に『何があなたを幸せにするか』という質問を投げかけた結果…。日本の生徒との違い」		「キリンギ中学校生徒によるアンケート結果」
	7-8	<b>海外研修②【わたしたちの村を発展させよう in English】</b> 「タンザニアを知った上で、タンザニアの村の開発、支援について考える」		「わたしたちの村を発展させよう」 (川崎市立宮前平中学校 下辻孝美 2012年)
<b>成果</b>	子どもたちがタンザニアに対して抱いていたイメージが大きく変化し、将来はアフリカに行ってみようという関心を抱かせることが出来た。 日本とタンザニアの違いを学び、日本の豊かさを学ぶと同時に海外への支援についても関心を持たせる事が出来た。			
<b>課題</b>	3クラス担当したが、教科書の単元をそのままタンザニアの内容へと変えたので、残りのクラスと同様に共通の文法事項などを本文に含ませながら教材を作らなければならないところが難しかった。			
<b>備考</b>	想像していた以上に子どもたちは今回の実践授業に興味を持って意欲的に取り組んでもらえた。もう少しレベルが高ければ英語の量を増やしてディスカッションを行うなどしてみたかった。			



## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目 「出発前事前研修① タンザニアはどんな国だろう？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① これから実際にタンザニアに行くという仮定で、生徒達は6人グループの班を作った。今回の単元は常にグループでの活動を行うことにした。
- ② これから行動をするグループである有名な洋楽のサビがバラバラになったカードを完成させるというアイスブレイクを行った。
- ③ タンザニアに関する情報を一切与えず、まずは予想や偏見で構わないのでグループでリスト化して書き出し、全体で発表した。

#### この時限のねらい

- ・生徒海外研修というタイトルのもとグループでの活動が主になるため、子どもたちのアイスブレイク。
- ・タンザニアについての予想や、自分達もつタンザニアに対する偏見が授業を通してどう変化するか考えさせる。

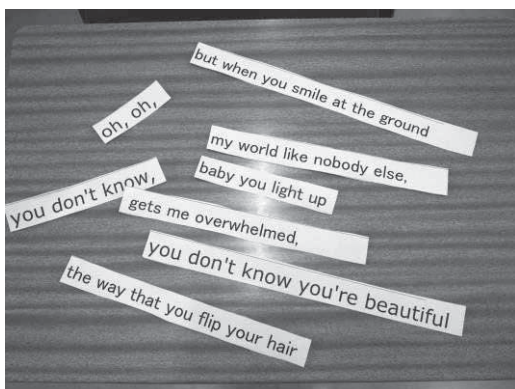
#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇ タンザニアについての予想については以下のようなものが多かった。

「茶色」「みんなガリガリ」「建物が低そう」「電気という概念が無さそう」「狩りをしてそう」「道路がなさそう」「学校は青空授業」「人があたたかそう」「エボラ」 などなど、やはり知識がないため偏見に基づくややネガティブなイメージが強かった。しかしこれらのイメージは実際教師の研修でも同様のものが多く挙がっていたため、こういったイメージが実際にどう変化をしていくか楽しみにして欲しいと伝え授業を終えた。

#### 3 使用した教材

・洋楽 One Direction より「What Makes You Beautiful」のサビをバラバラにさせたもの



・グループアクティビティの成果物

コミュニケーション英語 I  
グループワーク

タンザニアについてのイメージを何でもいいので書いてみよう！  
正確である必要は全くありません！予想、印象で結構です。  
文章でもいいし、キーワードでも構いません。グループで話合ってたっさん考えてください。

ザンバ	くアザガバ
Jamba	茶色い川(川が汚い)
森林	道路がない
動物を食べる	インシオン南砂
肌が黒い	赤い川
陽気	人が温かい
ライオン(動物園にいます)	黄色い葉
Hot	自給自足
人口が少ない	
建物低い	

グループ名 夢みる女子三人

・このイメージがどう変わるかがポイント

コミュニケーション英語 I  
グループワーク

タンザニアについてのイメージを何でもいいので書いてみよう！  
正確である必要は全くありません！予想、印象で結構です。  
文章でもいいし、キーワードでも構いません。グループで話合ってたっさん考えてください。

ムンゴロムゴロ	床屋のおまかせは小帯
バウパロー	サイ
キリン	大所帯
ゾウ	アフリカ
アフリカ	虫
先住民族	
茶色	
踊る	
愉快	
ライオン	
カメレオン	
広い	
人	
草 ~ WW	
インシオンあめが	

グループ名 EGO KIRAI

## 2 時限目「出発前事前研修② タンザニアはこんな国でした!？」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 海外研修で撮影した写真をランダムにグループで配布し、実際に行って帰って来たという仮定でフォトランゲージを行った。グループでの話し合いとストーリーを考える時間は15分ほど、各グループ発表は2分ほどで行った。
- ② 実際にタンザニアを訪れたビデオを生徒達に見せながら、思っていたイメージとの違いを理解させ、最後に振り返りシートを記入した。

#### この時限のねらい

写真や映像からタンザニアの国の背景を読み取り、1時間目で行ったタンザニアのイメージをプラスの方向に転換させ、「偏見」を克服するには実際に自分で体験したり、見てみる事が重要であることを学ぶ。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ フォトランゲージという手法は初めてであり、タンザニアに対する知識が少なかったため発表にはとまどいがあった。発表後にはそれぞれの写真に基づき教員から補足説明を入れることで、生徒達の驚きや未知の国に対する関心が深まったように感じる事が出来た。たった2時間で最初の授業で抱いていたイメージを大きく変える事が出来たことは、教員としても驚きが隠せない。

振り返りシートからいくつか抜粋したい。

「写真を見て、日本との違いや、お米の作り方を日本人が伝えた事は初めて知りました。」

「ビルなどは建っていないと思っていたので驚きました。田舎的なイメージが少し変わりました。」

「イメージとは違う、良い姿を見て少し申し訳ない。日本はこんな所でも活躍している。」

「タンザニアのイメージと違う部分がたくさんあった。」

「日本と共通した部分などもあるので行ってみたいと思った。」

「イメージとは違う、行ってみたら分かることもたくさんありそうだから海外渡航にも興味をもった。」

「タンザニアの人々の生活やおしゃれなところなどが興味深かった。」

「すごく貧しいイメージだったけど、ビルとかもあってびっくりした。でもまだ電気が通ってなかったりしている問題について解決しなければならないと思った。」

### 3 使用した教材

・フォトランゲージ用の写真。ランダムにグループに配布した





・「振り返りシート」 本時は一番上の枠

・イメージが変わったという声が多い

Communication English I  
 Special Lesson "Students Overseas Study Programme in Tanzania 2015"  
 Reflection Sheet (振り返りシート)

今日も授業お疲れ様でした！  
 それぞれの授業内で感じたこと、気づいたことを振り返って下さい。  
 以下の項目を1、2行程度で構わないので日本語で書いて下さい。  
 A: 今回の授業のどの点に興味が持てたか。または理解できた点について。  
 B: 海外遠航への関心が高まったか。またはいわゆる発展途上国への価値観の変化について。  
 C: 何でもよいので、一言。 **Asante Sana! (Thank you very much!)**

A タンザニアのイメージは通り、東部の風景が綺麗で面白かった。  
 B イメージ通り、行ってみると想像以上に海外遠航に興味をもちました。  
 C とても明るく楽しかった。国は綺麗でいいですね。

A タンザニアの生徒の笑顔が印象的でした。授業で「発展途上国」のイメージが持てました。  
 B 発展途上国JICAに行くと、授業で聞いた部分と違っていた。とても関心が高まりました。  
 C JICAが授業で知ることができた。今回の授業は面白かったです。

A 水道・電気・道路の中心、最も道路がキレイなところにはびっくりしました。  
 B 食糧の量は、タンザニアは、世界中の何倍かの課題があることが分かった。  
 C 最初のタンザニアの授業で、タンザニアのイメージが変わり、行くまでにはなかった。

グループ名 ( 大西 )

Communication English I  
 Special Lesson "Students Overseas Study Programme in Tanzania 2015"  
 Reflection Sheet (振り返りシート)

今日も授業お疲れ様でした！  
 それぞれの授業内で感じたこと、気づいたことを振り返って下さい。  
 以下の項目を1、2行程度で構わないので日本語で書いて下さい。  
 A: 今回の授業のどの点に興味が持てたか。または理解できた点について。  
 B: 海外遠航への関心が高まったか。またはいわゆる発展途上国への価値観の変化について。  
 C: 何でもよいので、一言。 **Asante Sana! (Thank you very much!)**

A タンザニアのイメージ通り部分が多かった。  
 B 日本と共通した部分も多かった。興味も持てました。  
 C とても楽しかった。印象が良かったです。

A タンザニアの人は教育と文化にとても熱心だ。  
 B 発展途上国の発展のスピードが驚かされた。  
 C 発展途上国を知ることができた。

A グループの人に意見が言えなかったのが残念だった。  
 B 発展途上国を見ることができた。  
 C タンザニアについての興味が増えた。

グループ名 ( 大西 )

## 3-4 時限目「出発前事前研修③ タンザニアを知ろう！」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① タンザニアについての地理的な概略を学び、JICAタンザニア事務所で配布された広報用英文記事を読み、青年海外協力隊や教師海外研修とは何かについて学んだ。

#### この時限のねらい

タンザニアの位置や国旗、そして地理上の特徴などを学習し、英文記事を読み、JICAの活動や教師海外研修のプログラムとそのねらいは何かを学ぶ。

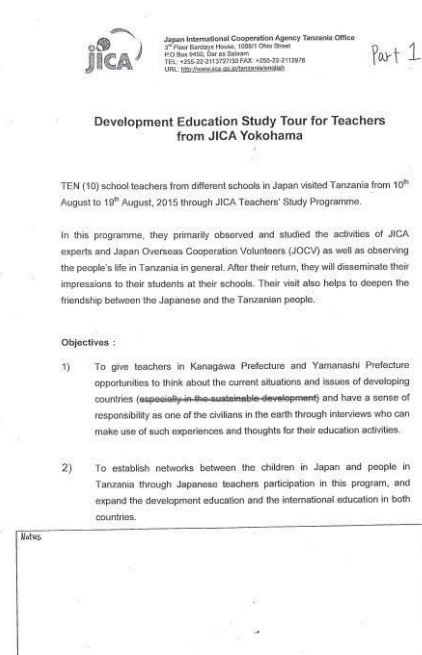
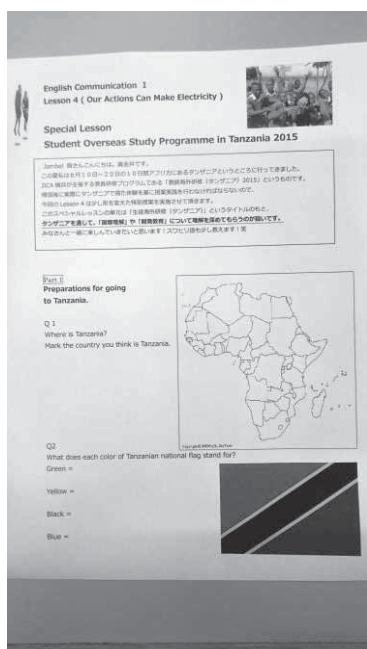
### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 国旗のそれぞれの色について、青は海、黒は国民という部分は予想できていたが、黄色が何を示しているかなどは難しかったようであり、答えを聞くと更に関心が深まったようである。
- ◇ 教科書以外のオフィシャルな英文文章を読むのは初めてであり、かなり読解に苦戦をしていたがグループで助け合いながら読解をすることにより、アクティブラーニングとしての効果もより発揮されたように感じられた。日本とタンザニアを結ぶ架け橋にするのがプログラムの目標であることに対して理解が深まり、JICAの活動の規模の大きさを学ぶ事が出来た。  
「自分も将来JICAの一員として海外に行ってみたい」という声を聞くことも出来た。

### 3 使用した教材

・タンザニアの地理も学びます

・JICAタンザニア事務所の記事が教材



## 5-6 時限目「海外研修① What Makes You Happy?」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① 自主作成教材の英文を読み、タンザニアで実際にどんなことをしたのか。キリンギ中学校での生徒と日本の生徒の価値観の違いについて学ぶ。
- ② キリンギ中学校の生徒達にとって一番幸せな事とは何かについて予想し議論をする。その際に与えられた選択肢の中からまずは自分でランキングを作る。その後グループで話し合いをして、一つに絞り発表をする。
- ③ 振り返りシートに記入。

#### この時限のねらい

タンザニアの中学校の生徒や学校の様子を学び、彼らにとって幸せにしていることは何かを学び、日本の生徒達との価値観の違いについて学ぶ。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 発表ではタンザニアの子ども達は「友達」が一番重要であると考えていた生徒が多く、ついで「家族」や「食べ物」などが続いた。やはり国際理解教育というものを体験したことがない子ども達にとっては「日本人のものさし」から見て、何が大事かなどを判断することが多いような印象を受けた。
- ◇ 発表後にはタンザニアの子達が実際に選んだものが「教育」であり、その理由が教育を受けていわゆる良い学校に行かないと仕事を得られないと思っているからという話しをしたところ、また新たな驚きがあったようだった。

以下は振り返りシートからの抜粋

「発展途上国で学習が大事にされている理由を知り、自分がどれだけ恵まれているかがわかった。」

「医者や弁護士になりたいという子ども達は多いけれど、本当になれた人はどれだけいるのか気になった。」

「発展途上国の人たちは日本の子より勉強がしたい子や夢をもっている子がたくさんいて良いなと思った。」

「確かに昔の日本と似ているかもと思った。」

### 3 使用した教材

・キリンギ中学校の生徒にとってどれが一番大事なのだろうか

chart 2

Family	Friends	Education
Religion (宗教)	Money	Hobbies
Work	Food	Others



For Tanzanian students, what makes them happy the best?

#### Activity!

Talk in your group and guess what the most important thing is for them.



We think \_\_\_\_\_ is (are) the most important for them

because \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



・日本の子ども達の事前アンケートの結果

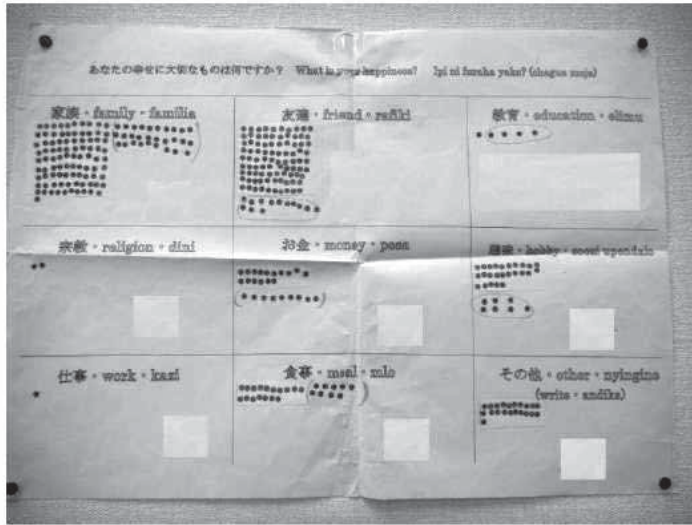


chart 1

Most Japanese students believe a family makes them happy!

・英文の難易度は易しめ

Special Lesson  
Students' Overseas Study Programme in Tanzania 2015

**Unit 2 What Makes You Happy?**

The teachers got up early in the morning to get a flight to Kilimanjaro. Then they headed for Kilindi (キリンディ) Secondary School to observe the differences of schools and students between Japan and Tanzania. They wanted to ask the students what makes them happy or what the most important thing is for them. Some teachers had asked their students in Japan the same question before coming to Tanzania (See chart 1). The teachers asked the Tanzanian students to put stickers on their favorite choice on the sheet. (See chart 2). What were the differences?

chart 1

Most Japanese students believe a family makes them happy!

chart 2

Family	Friends	Education
Religion (宗教)	Money	Hobbies
Work	Food	Others

For Tanzanian students, what makes them happy the best?

**Activity!**  
Talk in your group and guess what the most important thing is for them.

We think \_\_\_\_\_ is (are) the most important for them because \_\_\_\_\_

Notes



・「電気」「水」「道路」あなたならズバリどれ！？



・「ワークシート」 個人の意見がディスカッションで変化しているのがわかる

Part 3

Let's Develop Our Village! ワークシート

① 私は（水道・電気・道路）のうち、水道を選んだ。

② 理由は

自分の考え

水道を整備すれば、村の住民の健康が確保されることになり、人々の生活が向上して、観光客も増える。また、電気や道路を整備するより、水で生活する方が、収入に比べて初期の負担も少ないから。

③ グループで議論した結果、私達のグループは 道路 になった。

④ 理由は

グループ討議の結果

道路を発展させると、観光客が増え、収入が増える。また、経済発展を促す。その上で、水道や電気を整備すれば、生活が便利になり、観光客も増える。道路は、観光客の足場として、最も効果的だ。

⑤ 村はこうに発展していこう。イメージしながら話し合おう。

最初の3年間  
経済発展を促して、観光客が増えるのを目標に。  
その後、10年かけてこうなっていく  
観光客が増え、収入も増える。都市化が進み、水道や電気の補給も進んでいく。  
それでも残る村の課題はきっと...  
車の増え、発展に伴って、観光客が増える。農業も盛んになる。

Group Name マサキ族 Your Name \_\_\_\_\_



## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

今回の授業を通じて、想像していた以上に生徒達のタンザニアに対するイメージがガラリと変化したことがわかった。特に今回の研修の様子をまとめた動画を見せると、生徒達は見入り、「思った以上に楽しそう」、「私も行ってみたいくなった」といった声が多く聞かれたことは何よりも喜ばしい。今回の実践授業が生徒達にとって関心の高いものとなり、実際に将来、海外渡航をしてみたいという興味を高めることが出来たことは今回の海外研修のねらいを十分に達成することが出来たと言っても過言ではないかもしれない。

最後に今回の研修の機会を下さりましたJICA横浜の方々、そしてJICAタンザニア事務所の方々、タンザニアの現地で今日も尽力されている青年海外協力隊の皆様、暖かいタンザニアの皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございました。

・ティンガティンガアートのお土産



・タンザニアで購入した楽器



### 2 参考文献・資料

- 1) ひとりではじめたアフリカボランティア 栗山さやか 2015年
- 2) JICA Tanzania Pamphlet 2015年  
<http://www.jica.go.jp/tanzania/english/activities/c8h0vm00008d0ll0-att/pamphlet.pdf>
- 3) 教材「わたしたちの村を発展させよう」川崎市立宮前平中学校 下辻孝美(英語科教員)2012年

以上

# 異文化理解

<b>実践場所</b>	山梨県	甲府西高等学校	<b>実践者</b>	諏訪めぐみ
<b>対 象</b>	高等学校 3 年次、教員		<b>時間数</b>	3 時間
<b>担当教科</b>	総合的な学習の時間		<b>実践教科</b>	学校設定科目「鳳凰学」
<b>ねらい</b>	タンザニアについての情報を提供しながら、今回の研修で学んだことや体験、感じたことを伝え、異文化理解をはかる。JICA による専門家、協力隊の活動を伝える。			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備 考</b>
	0	事前アンケート「あなたの幸せに大切なものは何ですか」		事前アンケート
	1	フォトランゲージ 白地図で位置確認 タンザニアの教育について知る 日本とタンザニアの幸せの価値観の違い 事前アンケートの結果の提示とタンザニアの生徒の結果		タンザニアで撮影した写真、動画 カンガ タンザニアの数学の問題集
	2	タンザニアについての基礎知識 農業について		タンザニアで撮影した写真、動画 カンガ カシューナッツ
3	文化について 電力について		タンザニアで撮影した写真、動画 ティンガティンガ カンガ キリン フォトランゲージ	
<b>成 果</b>	現地で収集した生の素材を使うことにより、生徒が遠い国を身近に感じることができた。価値観の違いから、その国の現状を理解させることができた。Jica の活動も紹介でき、生徒の中にも海外青年協力隊に参加したいとの声もあがった。			
<b>課 題</b>	単発の授業に終わることなく、継続的に様々な国や問題を取り上げながら、生徒を刺激する必要がある。そのためには、教師側の工夫が必要になる。また、国際理解教育や開発教育の意義や方法を教員間で共通して持つ必要がある。			
<b>備 考</b>	1, 2, 3組合同、4, 5組合同、6, 7組合同で授業を行った。また、校内の多くの先生方にも参観していただいた。			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「価値観」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①撮影された写真を見て、どこの国か考える
- ②白地図にタンザニアの場所を記す。
- ③「あなたの幸せにとって大切なものは何ですか」  
タンザニアと日本の結果の相違について考える。

#### この時限のねらい

タンザニアについて大まかに知る。  
タンザニアの教育システムを知る。  
幸せの価値観の相違を知る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇タンザニアが、想像と違い都会であることに驚いていた。

◇生徒は、「幸せ」と感じることは文化や社会状況によって大きく異なることを理解した。改めて勉強に関して日本は恵まれている環境に感謝し、もっと精進していかなくてはと感じた。自分の人生をより豊かに生きるためにもっと勉強したい。という意見が多く出された。

#### 3 使用した教材

<教材1>世界の白地図

<教材2>タンザニアで撮影した写真

<教材3>カンガ

<教材4> Ordinary Level MATHEMATICS





## 2 時限目「タンザニアの基本知識、タンザニアの農業」

### 1 子どもの活動の流れ

- ①タンザニアの基礎データを調べる
- ②タンザニアの農業について学ぶ
- ③日常生活について学ぶ(農村体験)

#### この時限のねらい

タンザニアの基本知識の習得  
タンザニアの主食を知ることにより、タンザニアの農業を理解する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇タンザニアについて自分で基礎データを調べることにより、日本との違いを想像する。
- ◇トウモロコシの収穫状態が日本と違うことにより、国によって食べ方が違い興味深かった。という感想が生徒からでた。
- ◇日常生活の様子を見ることにより、タンザニア人の生活が分かった。また教育により、よりよい生活を手に入れることができることを知った。日本よりも教育がそのまま就職に関係していることが分かった。
- ◇JICAによる専門家の活躍を知れて良かった。JICAに興味を持った生徒もいる。

### 3 使用した教材

- <教材1>外務省のタンザニア基礎データなど
- <教材2>タンザニアで撮影した写真(農村体験や農作物)、動画
- <教材3>カシューナッツ
- <教材4>カンガ

### 3 時限目「伝統文化、電力問題について」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①ティンガティンガを知る。
- ②カンガについて知る。
- ③電力問題について考える。

#### この時限のねらい

ティンガティンガについて知る。  
カンガについて知る。  
電力問題について知る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇その国独自の絵の描き方があることを知った。ティンガティンガがタンザニア美術部門代表なら日本は水墨画、浮世絵が代表作などの意見がでた。
- ◇電力については日本の企業ががんばっていることに驚きを隠せなかった。
- ◇JICAによる専門家の活躍を知れて良かった。JICAに興味を持った生徒もいる。

#### 3 使用した教材

- <教材1>ティンガティンガ
- <教材2>キリン
- <教材3>タンザニアで撮影した写真、動画
- <教材4>カンガ



## 2015 年度教師海外研修報告書



独立行政法人国際協力機構  
横浜国際センター（JICA 横浜）  
市民参加協力課 教師海外研修担当

〒231-0001

横浜市中区新港 2-3-1

Tel:045-663-3220 Fax:045-663-3265

E-mail:yictpp@jica.go.jp

<http://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>